

NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY
奈良先端科学技術大学院大学

受験生のための大学案内 2008-2009



INFORMATION SCIENCE



BIOLOGICAL SCIENCES



MATERIALS SCIENCE

<http://www.naist.jp/>

NAIST®

限りなき未知への探究

～最先端はNAISTから～

インターネット、マルチメディア、クローン、ゲノム、ナノテクノロジー…

これらは、例えば20年前には一般の人が耳にすることもなかった用語。

——ここ10数年における科学技術の進展には目を見張るものがあります。

本学は、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学という“最先端”分野を学べる大学院大学。

最新のテクノロジーに対応した設備と実績豊かな教授陣を整えることにより、輝かしい成果を挙げる一方、

産業界にも優秀な研究者・技術者を輩出し続けています。

また、3つの分野を相互に関連する学問としてとらえた、総合的・体系的な研究にも力を入れています。

これからも「先端」の名にふさわしく、科学技術の発展に貢献しながら、

次世代に活躍できる人材を養成してまいります。



INFORMATION SCIENCE P5



BIOLOGICAL SCIENCES P11



MATERIALS SCIENCE P17

CONTENTS

- 3 受験生の皆さんへ／目的／教育使命／人材養成目的／教育方針／全学のアドミッションポリシー

研究科情報

- 5 情報科学研究科
- 11 バイオサイエンス研究科
- 17 物質創成科学研究科

大学情報

- 23 キャンパスマップ
- 27 学生支援
- 31 キャンパス周辺エリアMAP
- 33 修了後の進路及び就職状況
- 35 資料その他
- 37 入学者選抜試験
- 39 学生募集関係イベント
- 40 アクセス

受験生の皆さんへ

奈良先端科学技術大学院大学は、学部をもたない大学院大学として1991年に発足しました。国公立大学の様々な学部卒業生、社会で活躍している人々や各国の留学生など、多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れ、体系的なカリキュラムによる教育と研究を行っています。教員のバックグラウンドも多様です。チャレンジ精神があり有能な学生や教員の教育研究の成果が、国際学会や雑誌などで第一線の研究成果の発表に実を結び、その結果「大学院教育改革支援プログラム」、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ、「グローバルCOEプログラム」への採択やその他の競争的資金を獲得し、本学は最良の教育研究環境にあります。

大学を卒業して、さらに情報、生命、材料科学の最先端の学問を究め、日本だけでなく世界の舞台で活躍したいという強い意志を持っている学生の皆さん、また社会人として様々な経験をもっている皆さん。これまで学んでこられた出身学部や専門分野を問わず、本学は皆さんに大きく門戸を開いています。本学で学生、教職員とともに日々の「知の戦い」に参加し、人類の幸福と平和のための「知の創造」行為を楽しみ、人間力を磨きましょう。



学長 安田 國雄

NAISTはあなたの未来を拓きます！

目的

奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) は、学部を置かない大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、科学技術の進歩と社会の発展に寄与します。

教育使命

NAISTは、先端科学技術の発展に資する人材を養成するために、学部を置かない大学院大学として平成3年10月に設置されました。NAISTの研究教育分野は、「情報科学」「バイオサイエンス」および「物質創成科学」の3つの基盤的な学問領域です。

21世紀における人類の豊かな生活と住みよい社会を実現し、持続していくためには、次代を担う人材を養成し、人類の存続に役立つ多様な研究成果を社会に提供することが不可欠です。そのためには、単に科学技術に精通するだけでなく、大局的な視点をあわせ持つ人材を育成する全人的な教育が必要です。

本学では、「情報科学」、「バイオサイエンス」および「物質創成科学」という先端科学技術の基盤的な学問領域に加え、それらの融合領域の研究教育、また倫理教育や知的財産教育などにも積極的に取り組んでいます。

人材養成目的

体系的な授業カリキュラムと研究活動を通じて、博士前期課程では、社会・経済を支える高度な専門性を持ち、社会において指導的な立場に立てる人材を、博士後期課程では、科学技術に高い志を持って挑戦し、国際社会で指導的な役割を果たす研究者・技術者を養成します。

教育方針

専門教育カリキュラムに加えて、人間として備えておくべき倫理観、広い視野、理論的な思考力、積極的な行動力、総合的な判断力、さらには豊かな言語表現能力を養う、教育カリキュラムを実施します。

また、新たな融合領域へ挑戦する人材を養成するための、3研究科が連携した教育プログラム、高度な国際性を養成するための、海外の教育研究連携校との共同プログラムを含む、教育プログラムを実施します。

そして、自己評価や外部評価をフィードバックして、常に教育の質の向上を図ると共に、教育研究環境の充実と優秀な学生の経済的支援を進めます。

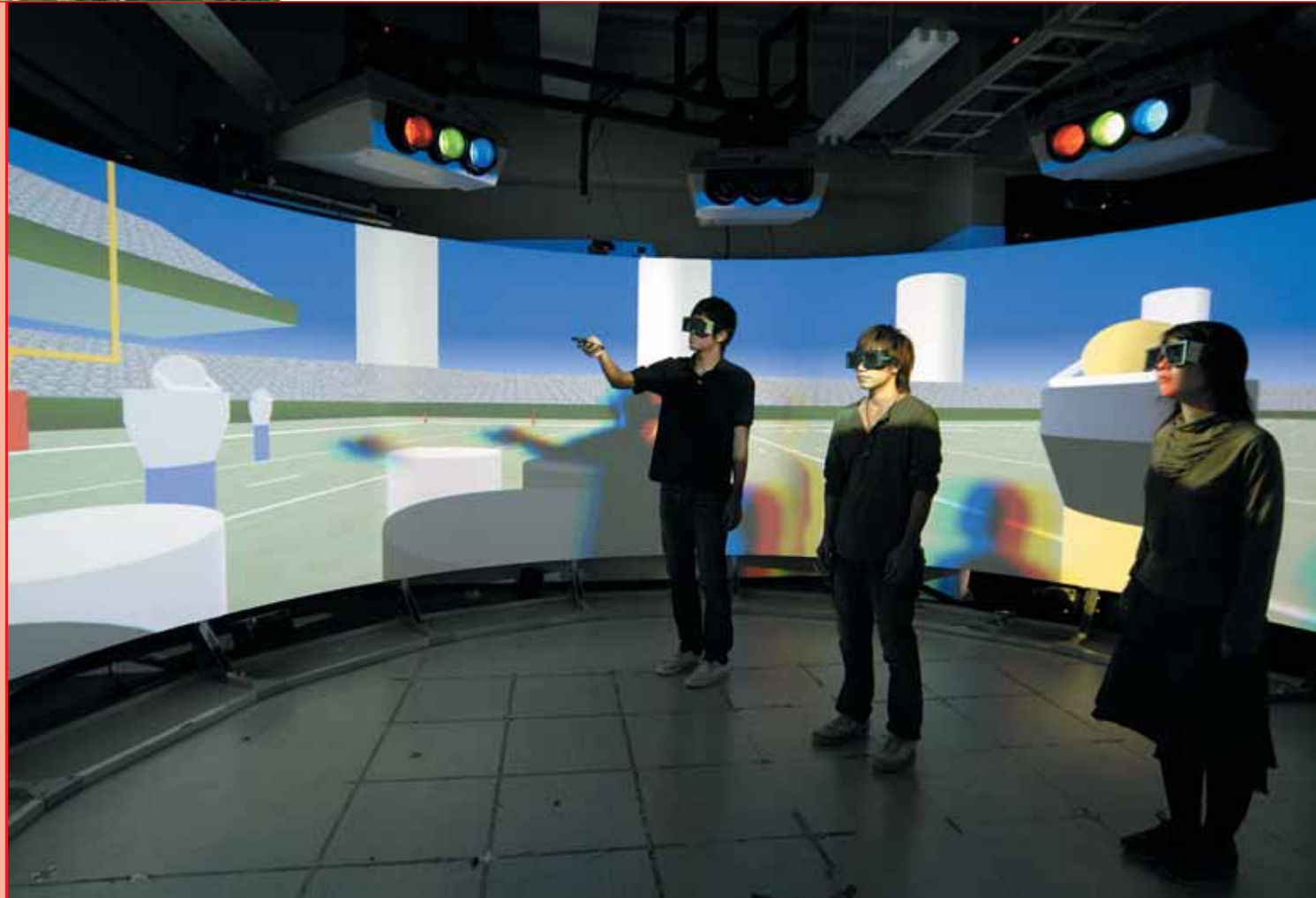
全学のアドミッションポリシー（入学者受入れ方針）

国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力をもった学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、各々の研究分野に対する強い興味と意欲をもった者を積極的に受け入れます。

情報科学研究科

ユビキタス情報社会を実現する最先端の研究拠点

情報と通信の科学と技術でユビキタス社会を実現するための最先端の研究を展開しています。評価が高い教育カリキュラムと高度な研究力で、広範な分野の知識を網羅した人材を育成します。



研究科長のあいさつ



情報科学研究科
研究科長 横矢 直和

本研究科の特徴は、オープンで活気に満ちた教授陣で多様な講座を構成して、情報科学に関する広範囲な教育研究の充実を図っていることです。学部での専攻分野にとらわれず個性を重視した入試制度で選抜した多様な学生の受入に対応した柔軟な教育カリキュラムの編成や、最先端の情報処理環境「曼陀羅」の整備を行うとともに、優秀な学生を対象にした支援プログラムや短期修了の制度などを用意しています。

研究科の教育研究活動の成果は、最近の様々な調査において、全国トップレベルにランキングされています。21世紀COEプログラム、『魅力ある大学院教育』イニシアティブ、大学院教育改革支援プログラム等の拠点に選ばれた本研究科は、積極的に勉学と研究に取り組む意欲を持った学生を待っています。主役はあなたです。

アドミッションポリシー

情報科学研究科では、情報・通信の科学と技術の発展や変化に柔軟に対応できる能力を身に付けるため、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力を持った人を求めます。

- 1 博士前期課程では、旺盛な好奇心と何にでも挑戦する実行力を持った人。
- 2 博士後期課程では、専門テーマにおける問題の発見と解決の方策を見出す力を持った人。



情報科学研究科の人材養成目的と教育方針

情報科学研究科では、情報科学に係る高度な基礎研究を推進するとともに、感覚と判断を支援する情報処理技術、大規模な情報システムを構成する技術、安心できる情報ネットワークの構築と運用の技術、情報科学と生命科学が関わる広汎な融合研究など、情報科学に関する広範囲な領域をカバーした体系的な教育プログラムを実施して、将来の研究開発を担う研究者や高度な専門性を持った技術者を養成します。

【博士前期課程】

◆教育目標

さまざまな分野の多様な経歴を持った人を受け入れ、広い視野と着実な技術を備えた修士を育成します。進学、就職、起業のいずれの進路であっても、情報科学に関連する幅広い知識と専門分野の先端の知識を修得すること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を修めること、国際的に活躍するために英語の能力を高めること、適正な倫理感をもつことなどが不可欠です。これらの能力を備えて、社会の変化に柔軟に対応して活躍できる人の育成を目指しています。

◆指導計画と方針

1. **カリキュラム**：科目が対象とする分野を、「計算機科学」「認識・表現と知能」「情報ネットワーク」「システム科学」「情報生命科学」および「関連する領域」に分けて選択の指針としています。情報科学以外の分野の経歴をもつ人のために、計算機科学と数学の基礎科目を開講しています。
2. **講座配属**：入学式の前後に各講座の紹介をして見学の期間を設け、学生の希望調査をもとにして所属する講座を決定します。受入人数は講座によって均等にではなく、学生の希望を最優先して、殆どの学生を第一希望の講座に配属しています。
3. **ゼミナールにおける討論と発表**：ゼミナールⅠは国内外の一流の研究者や技術者から先端研究の紹介や技術の動向を伺い、質問や意見を積極的に述べる訓練をします。ゼミナールⅡでは、各自の修士論文の研究計画や研究経過を報告して、指導教員や学生のコメントを受けます。
4. **プロジェクト実習**：授業では扱えなかった問題や課題について実習や実験を行い、実用化における設計能力を養います。またインターンシップとして他研究機関や企業での研究や開発に携わって、現場での問題解決を体験します。
5. **修士論文研究**：「研究論文」では、未知の問題について研究を進め、創意を発揮して問題解決することを目指し、その成果を論文の形に総括します。「課題研究」では、特定の研究分野の概観、技術動向の調査な

どを行い、報告書にまとめます。主指導教員の指導に加えて、副指導教員など複数の教員が協力して指導に当たります。

6. **英語教育の充実**：学年と能力に応じ、「英語ライティング法」、「英語プレゼンテーション法」等を履修して英語によるコミュニケーションと表現の能力を養います。また、年2回、TOEIC英語試験を受験できる機会を設けています。

【博士後期課程】

◆教育目標

博士後期課程では、長期的な広い視野と、専門とする分野の深い知識を持って、独立して研究を進めることができる研究者を育成します。修了後は、大学や企業等の研究機関における高度な研究者や技術者、後進を指導できる教育者としての活躍が期待されています。情報科学に関連する分野は、進歩が激しく変化が絶えませんが、それによらない普遍的な方法（普遍性）、それに対応できる柔軟な方法（柔軟性）、信頼できる方法（信頼性）が求められます。これらの能力を備えて、国際的に活躍する人材の育成を目指しています。

◆指導計画と方針

1. **博士論文研究**：博士後期課程では博士論文の研究を進めることが課題の中心です。問題を見つけ出して、研究計画を立て、創意を持った研究を遂行して解法を提案し、さらには、開発あるいは実装します。関連研究を調査すること、自分の提案を客観的に評価すること、残された課題を明らかにすることも欠かせません。これらの過程で、教員が適切な指導と助言をして、研究を支援します。
2. **中間発表**：課程の途中で博士論文研究の経過と結果、および、その後の計画を発表します。複数の指導教員が、それに対して質問をし、意見やアドバイスを述べ、研究の有効な推進を支援します。

※カリキュラムの詳細については、研究科紹介12頁を参照してください。



TOPICS



個性を重視した広範な学生受け入れ

- 入試試験では筆記試験は実施しません。
- 講座はオープンで活気に満ちた講座群からあなたが選択。
- 経済産業省「大学評価」でA+ランクのカリキュラムと集中履修。

優秀な学生を支援する豊富な支援プログラム

- 短期修了・特待生・奨励研究員など。
- 海外研修支援や国際研究集会発表派遣支援など。

INFORMATION

情報科学研究科ホームページ
URL : <http://isw3.naist.jp/home-ja.html>
研究室の見学「いつでも見学会」
URL : <http://isw3.naist.jp/Contents/Others-ja/CampusTour-ja.html>

情報科学研究科入試情報ブログ
URL : <http://is-exam-www.naist.jp/blog/>

最先端の「曼陀羅」情報環境

- 超高速ネットワーク
- 大容量ファイルサーバ・大規模計算サーバ・情報科学研究システムなど。

秀でた競争力で世界最高水準の大学院づくりを推進

- 文部科学省大学院教育改革支援プログラム「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」
- 文部科学省先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム「高度なソフトウェア技術者育成と実プロジェクト教材開発を実現する融合連携専攻の形成」
- 文部科学省先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム「社会的ITリスク軽減のための情報セキュリティ技術者・管理者育成」
- 経済産業省産学連携製造中核人材育成事業「次世代ロボット分野でのイノベーション型製造中核人材育成事業」

外部からの高い客観的評価

- 教員一人当たりの特許出願件数およびライセンス料収入が全国1位
- 37歳以下の若手教員の割合が全国1位
- 教員一人当たりの研究経費が全国2位

情報科学研究科は教育にも研究にも 全力を注いでいます。

文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」採択 「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」プログラム

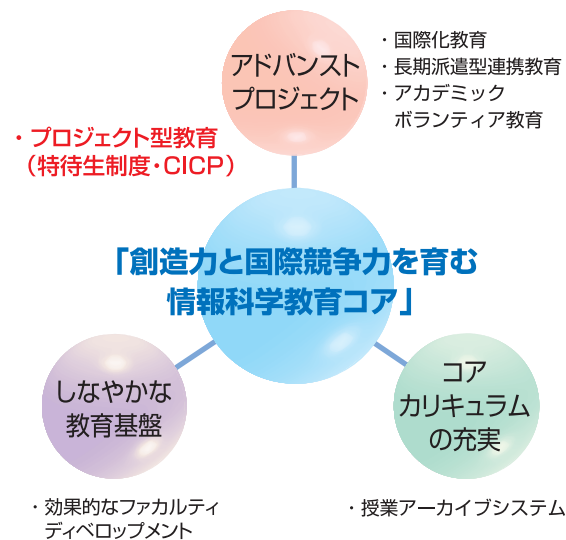
「大学院教育改革支援プログラム」は、大学院の優れた教育取組に対して重点的な支援を行うため、平成19年度より開始された文部科学省の事業です。本学情報科学研究科が提案し採択された「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」は意欲的・独創的で国際競争力をもつ若手研究者の育成を目的とした教育プロジェクトで、図に示す3つの柱からなります。

3つの柱のうち、アドバンスプロジェクトは、「学生の自主性に基づくプロジェクト型教育」（特待生制度とCICP）を含む4つの施策からなります。

特待生制度は、優秀な学生に単に経済的支援を行うだけでなく、特待生自らが企画した研究プロジェクトと国際化活動を支援することが特長です。具体的に授業料相当額の研究奨励金を支給する他に、研究プロジェクトと国際化活動に1人当たり年間約80万円の支援を行っています。平成19年度には、M2学生6名、M1学生4名が特待生に採用されています。過去の研究プロジェクト例として、案内ロボット開発があります。別々の講座に配属されていた3名が「最先端のロボット工学技術を取り入れ、子供達にも親んでもらえるロボットを作りたい」との想いでアイデアを出し合いました。完成したロボットは「イコちゃん」と名づけられ、大学最寄の「学研北生駒駅」構内で実働し、子供たちや通勤客の人気を呼びました。特待生希望者で入試の成績優秀者に対して特待生選抜を行います。詳しくは学生募集要項を参照して下さい。



イコちゃんとふれあう子供たち



テーマ提案型研究プロジェクト(CICP)では、学生の研究企画・推進能力とコミュニケーション能力を育むことを目的としています。学生が講座や学年の枠を越え研究グループを組織して提案書を作成し、その中から独創的なテーマが選抜されます。平成19年度は応募48件から22件を採択し、研究費として1テーマ平均約120万円を支給しています。採択テーマの一例を紹介すると、「大道芸ロボット『染之助・染太郎』プロジェクト」、「着られる外筋肉型パワーアシストウェア」、「3D細胞大図鑑」等、新鮮なアイデアが満載されています。

また、「コアカリキュラムの充実」では、本学情報科学センター・電子図書館と協力して、授業風景と教材を同期させた授業アーカイブを作成し、学生がいつでもどこでも利用できるようにしています。さらに「しなやかな教育基盤」では、海外の優れた大学へ若手教員を派遣して授業方法の研修プログラムの受講や研究指導方法の調査を行わせる等の意欲的な取組みを行っています。

特待生からのメッセージ ■ 情報基礎学講座 青山 瑠美



私は研究プロジェクトとして、他の特待生と一緒に、情報科学研究科棟の案内システムの改良に取り組んでいます。複数人が各々の得意分野に応じて役割を分担し、ひとつのものを作ることを通して、プロジェクト推進に必要なスキルには、実装そのものを行う能力だけでなく、自己管理やスケジュールを調整する能力が必要であるということをもっと知ることができました。また、国際化活動では、特待生各自で関心のある海外の研究機関、学校、国際会議を訪問することができます。大学院生時代に、研究以外に「自分はこれをやった」と言えるものを得られる絶好の機会ですので、是非挑戦してみてください。

CICP学生からのメッセージ ■ コンピューティング・アーキテクチャ講座 柴田 章博



私はCICPリーダーとして、電子楽器「ウダー」の楽団を結成しました。ウダーで音楽を演奏するだけでなく、ウダーを入力インターフェースとしたゲームの開発も行っています。このプロジェクトは楽団メンバーそれぞれの研究とは一切関係がありません。つまりCICPでは、学校からの支援を受けて自分の興味があることを実行することが可能です。受験生の皆さんの想像通り、研究室の窓からはいつまでも光が漏れ続け、中では学生は何かに取りつかれたように深夜まで研究を行っています。大学院では研究のみ熱中するというのも悪くはありませんが、例えばCICPのように研究以外にも熱中するものがあれば学生生活はさらに楽しくなります。是非CICPに応募してみてください。

IT Spiral : 高度ソフトウェア技術者育成プログラム

ソフトウェアシステムの大型化・高度化が進む一方で、開発期間の短縮が要求される状況のなか、高度な技術力と応用力を有して長期間にわたり活躍できるソフトウェア技術者が強く求められています。IT Spiral は、「文部科学省・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」の一環として、特にソフトウェア分野における高度な技術者育成を目指し、関西圏の9大学情報系研究科の卓越した専門家群の力とIT分野の代表的な民間企業4社の力を結集して、平成19年度からスタートした教育プログラムです。

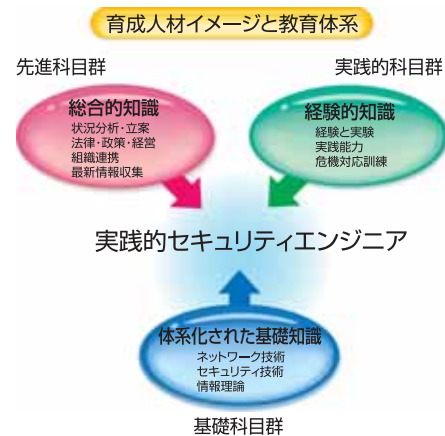
IT Spiralでは、基礎ソフトウェアエ学科目群、先端ソフトウェアエ学科目群、実践ソフトウェア開発科目群から所定の単位を履修した学生に、プログラム独自の修了認定証が授与されます。基礎および先端ソフトウェアエ学科目群ではソフトウェアの基礎的および先端的な分野を体系的に学びます。実践ソフトウェア開発科目群では、高度な技術力を持つ企業と協働した実習等により実践的なソフトウェア開発能力を習得します。プログラムの詳細については <http://it-spiral.naist.jp/> を参照してください。



IT Keys : 情報セキュリティ技術者・管理者育成プログラム

コンピュータネットワークシステムの情報セキュリティを脅かす攻撃・脅威が年々増大し複雑化・高度化するなか、産学官が連携した情報セキュリティ教育の実施や情報セキュリティ対策に必要な人材の育成が強く求められています。IT Keysは、このような要請にこたえるべく、情報セキュリティ分野における世界最高水準の人材育成拠点の形成を目的とし、「文部科学省・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」の一つとして、関西を中心とする4情報系大学院および4団体・企業が力を結集し、平成19年10月にスタートしました。

IT Keysでは、各大学が得意とする専門分野の教育プログラム、各団体・企業の協力による演習プログラムを実施し、組織における情報セキュリティ問題に対して主導的役割を果たすことのできる実践型人材の育成を行います。プログラムの詳細については、<http://it-keys.naist.jp/> を参照してください。



次世代ロボット分野でのイノベーション型製造中核人材育成事業

経済産業省平成19年度「産学連携製造中核人材育成事業」に採択され、「次世代ロボット分野でのイノベーション型製造中核人材育成事業」というテーマで次世代ロボット分野の人材育成事業を実施しています。日本産業界を牽引すると言われる次世代ロボット分野では、その中核技術であるロボット技術(RT)、ユビキタス技術(UT)、情報技術(IT)の技術インテグレーション、開発、フィールドマーケティングまでをこなす中核人材が不足しています。そこで、ATR、大阪大学大学院工学研究科、大阪市都市型産業振興センターと連携して、高度技術人材を育成し、関西圏における中小企業の活性化と、ロボットビジネスの創出を目的として人材育成事業を推進しています。実践的なカリキュラムを提供することで、次世代ロボット分野のリーダーとなるべき高度技術人材を育成していきます。



企業人事担当者からのメッセージ



日置 映正

ソニー株式会社 人事センター
採用部 統括課長

NAIST修了生は、多様な分野で活躍しています。

ソニーは、『世界の人々のライフスタイルそのものを変えていく』そんな夢を持ち続けている会社です。ソニーの設立趣意書には、会社設立の目的における第一文に「真面目ナル技術者ノ技能ヲ最高度ニ發揮セシムベキ自由闊達ニシテ愉快ナル理想工場ノ建設」と書かれています。この技術者を大切にする環境の中で受け継がれたモノづくりの精神は、今も新しいことにチャレンジし続ける源になっています。そんな精神をもった個性的な人たちが夢中になって共に困難に挑み壁を乗り越えていくことで、社員もソニーも共に成長してきます。

NAIST修了生は、信号処理技術、駆動制御技術、信頼性技術、情報通信技術、アプリケーション開発、システムソリューション、知的財産権利形成などといった多様な分野で活躍しています。科学技術に高い志をもって挑戦しているNAIST修了生の皆さんが、ソニーの仲間に加わってくれることで大きなシナジーを生み出してくれることを期待しています。

修了生からのメッセージ



伴野 充

株式会社富士通研究所
システムLSI開発研究所
先端システムLSI研究部
(平成19年度博士後期課程修了)

NAISTは充実した教育体制を敷いている大学院です。

この冊子を手にとってご覧になっているあなたの専攻は何でしょうか。おそらく情報科学とは全く異なった分野の人も多いことでしょう。そういった方は入学後本当に講義についていけるのか、またその後の研究活動において成果を出せるようになるのかと心配に思うことでしょう。しかし、この点に関して、NAISTは非常に充実した教育体制を敷いている大学院であると私は思います。その理由として以下の2点が挙げられるでしょう。

まずは基礎的な学力を養成するための多くの講義です。NAISTでは1年目にしっかりと講義を取られます。分野外の方のための情報科学分野の基礎講座も充実しています。最初の1年間をとおして、2年目からの研究活動に必要な素地を身につけます。そして2点目はNAISTが採る小講座制です。多くの大学が大講座制を採用するなか、NAISTでは小講座制を採っており、教授、准教授、助教とすべての役職の方が一つの研究室に在籍しています。そのため、研究活動のサポート体制はとても充実しているのではないかと思います。特に、助教は2人いる場合がほとんどであり、常に誰かが研究について議論できる状態にあります。これはほかにはない魅力なのではないでしょうか。

NAISTへ興味のある方はまず一歩前へ出て門を叩いてみることをお勧め致します。そうすれば、あなたのやりたいことの片鱗が垣間見えるかもしれませんよ。

在校生からのメッセージ ①



小町 守

博士後期課程2年
(東京大学教養学部卒業)

様々なバックグラウンドを持った学生が世界中から集まっています。

NAISTのいちばんいいところは、様々なバックグラウンドを持った学生が世界中から集まっているところです。自分の出身は歴史学科で、入学前は不安でしたが、文科系からの出身者には特別なサポートがあってなんとか乗り切れました。試験前に毎日みんなで研究室に残って徹夜したのは今では楽しい思い出です。

学外の企業と活発に交流しているのも特徴で、修士1年のときはNTTの研究所で、博士1年のときはシアトルのMicrosoftの研究所でインターンシップをしました。研究室によっては海外での数ヶ月の共同研究やインターンシップがたくさんあるので、海外に留学したいとか、海外で働きたいと思っている人はお勧めです。まずは一見にしかず、オープンキャンパスかスプリングセミナーに来てみてください。足を運んだらきっとNAISTの学生になりたくくなりますよ。

在校生からのメッセージ ②



鈴木 一範

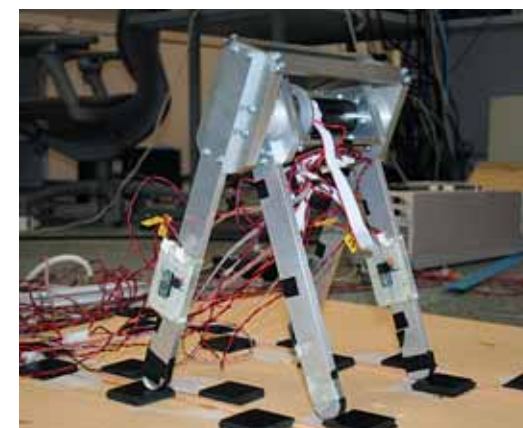
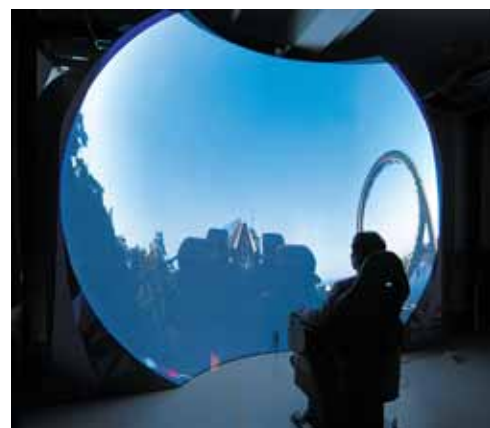
博士前期課程2年
(京都大学工学部卒業)

世界をリードする研究を、NAISTで行ってみませんか。

私がNAISTを選んだ理由は2つあります。まず本学が大学院大学であるという点です。普通の大学院は大半が学部からの進学生であるのに対し、本学では社会人や留学生、他分野から来た学生など様々なバックグラウンドを持った学生が集まっています。そのため、研究内容について議論するにしても普通の大学院では得られないようなアイデアが出てくることがあります。全く的はずれな意見が出ることもあります。それも含めて日々活発な議論が行われており、いい刺激になります。

次に、本学の施設が他の大学院に劣らないくらい充実しているという点です。最低でもSolarisのワークステーションが1人1台割り当てられます。さらに多くの研究室では学生に対してWindowsのノートパソコンやデスクトップマシンを提供しています。パソコン以外にも、研究テーマに応じて本学にある最先端の研究施設、例えばユビキタスサービス研究用の位置情報計測装置などが利用できます。また敷地内にはネットワーク環境が整えられた学生宿舎も用意されており、宿舎からネットワークを通じて研究室のサーバを利用する、といったことも可能です。

世界をリードする研究を、ここNAISTで行ってみませんか？



バイオサイエンス研究科

生命現象の基本原則を求めて最先端の研究を推進

生命現象の基本原則と、生物の多様性を明らかにする最先端の研究を推進しています。さらに人類の福祉に貢献する開発研究にも取り組み、世界的レベルで活躍できる多彩な人材を養成します。



研究科長のあいさつ



バイオサイエンス研究科
研究科長 河野 憲二

ワトソン・クリックによるDNAの2重らせん構造の発見以来、化学、物理学、情報学などを巻き込んだここ50年間の生物学の発展には目を見張るものがあります。現在の生物学、あるいはこれからの生物学には様々な分野とのクロストークによる新しい発想が要求されることは明らかですが、本研究科はこれらのことを見据え、学部を越えた全国からの先鋭的な研究者を集めて平成4年（1992年）に創設された我が国でも初めてのバイオサイエンスを目指した大学院研究科です。平成6年に一期生を迎えて以来、教員・学生のたゆまぬ努力と奮闘により、平成14年には21世紀COE、平成17年には魅力ある大学院教育イニシアティブにも選ばれ、着実な進歩を遂げてきました。それらの結果が高い評価を受け、平成19年度にはグローバルCOE（生命科学分野で全

国13拠点のうちの1つ）並びに大学院教育改革支援プログラムにも採択され、優れた教育研究拠点として国内外に認知されています。また上記とは別に平成17年からは、全国の大学院学生に対しプロテオミクスとバイオイメージングの最先端教育を行う植物科学研究推進事業の拠点校としての活動も開始しており、名実共に日本におけるバイオサイエンスの拠点としてさらに大きく羽ばたこうとしています。

バイオサイエンス研究科は、生物に興味があり、生きているということを科学の言葉で語りたいと思っている気概のある人を歓迎します。「相手は世界だ」を合い言葉に、一緒に研究を進めながら学ぼうと思う人は研究科の扉を叩いてください。私達は多様な背景に即したカリキュラムを用意して皆さんをお待ちしています。

アドミッションポリシー

バイオサイエンス研究科では、次のような人を求めます。

- ①生命現象の基本原則と生物の多様性を分子レベルおよび細胞レベルで解明することに熱意と意欲を持っている人。
- ②バイオサイエンスの深く広い専門知識を人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い科学技術分野での活躍を志している人。

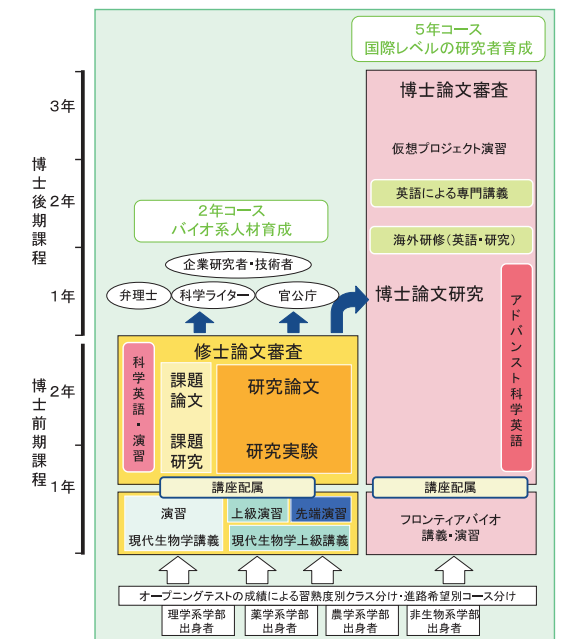
バイオサイエンス研究科の人材養成目標と教育方針

バイオサイエンス研究科では、5年一貫で博士号を取得するフロンティアバイオコースと2年で修士号を取得するバイオエキスパートコースの2コース制で教育を行っています。

フロンティアバイオコースではバイオサイエンスとバイオテクノロジーの先端科学技術分野に係わる高度な研究を推進するとともに、独立して研究の立案や実践ができ国際社会で指導的な役割を果たす研究者を5年間の標準修業年限で育てることを目的とします。そのために、配属講座で研究指導をするだけでなく、バイオサマーキャンプ等を通して先端生命科学の多様な研究課題やアプローチの理解と興味の深化、プレゼンテーション能力や討論力の向上のために個人に設定される他講座の教員からなるアドバイザー委員が常なる指導を行います。さらに、外国人教師による英語講座、国際会議での発表支援や短中期の海外研修、海外の教育研究機関の教員による少人数集中講義・演習、国際学生ワークショップへの参加を通して実践的な英語教育を行います。加えて、COE TA、RA制度により学生の経済的支援を行います。

バイオエキスパートコースでは高度な知識を生かして企業などで活躍できる人材を博士前期課程2年で育てる事を目的とします。そのために、バイオサイエンスの基礎知識の短期集中講義と演習、講座配属後の講座をこえたアドバイザーによる個々の学生の研究指導とプレゼンテーションやコミュニケーション能力の開発を行います。また、バイオテクノロジー特論の講義、企業活動の体験などのキャリアパス設計を指導します。そして、科学技術論、科学技術者論、生命/科学論理、情報科学概論、物質創成科学概論の講義、特論セミナーにより、広い基礎知識の習得と科学倫理の養成ならびに高度の専門的知識も習得を行います。さらに、最新のIT機器やTOEICによる実用的な科学英語の学習を行います。

両コースとも、学生の多様な学習歴や進路希望に応じて、きめ細かな教育と研究指導をプロセス管理された教育プログラムで行います。そして、常に自己評価、外部評価による教育の改善策を行い、教員の更なるスキルアップを進めています。我々の教育は政府による「グローバルCOEプログラム -フロンティア生命科学グローバルプログラム-」（平成19年～23年）と「大学院教育改革支援プログラム -2コース制によるバイオ人材育成プログラム-」（平成19年度～21年度）のバックアップで推進しています。



*カリキュラムの詳細については、研究科紹介8頁を参照してください。

TOPICS

大学院生によるサマーキャンプを開催

第3回目となるサマーキャンプ（淡路島夢舞台国際会議場において9月に2泊3日で開催）では全員が英語で発表するという目標を掲げました。グローバルCOEプログラムの一貫として、学生が国際的な場で発表する能力を養うことを目標としたものです。英語による発表は多くの学生にとって初めての経験であったにも関わらず、わかりやすい発表が多く、踏み込んだ質問も数多く飛び出しました。2年前から取り組んでいるUC Davisでの英語・研究研修や同校から招聘した米国人教員による集中講義の教育効果が早くも現れたものと教員一同大いに驚きました。3日間の全てのセッションにおいて、参加者が活発に議論を行い、研究を通じた実り多い交流の場になりました。

INFORMATION

バイオサイエンス研究科ホームページ
URL: <http://bsw3.naist.jp/index.html>

研究室の見学
URL: <http://bsw3.naist.jp/admissions/visit.html>

バイオサイエンス研究科および遺伝子教育センターでは、随時希望に応じて研究室等の見学を受け付けています。見学を希望される方は、見学希望の講座の教授に電子メールにてお問い合わせください。



バイオサイエンス研究科は世界最高水準の研究人材育成をめざしています。

文部科学省グローバルCOEプログラム「フロンティア生命科学グローバルプログラム」

バイオサイエンス研究科は、文部科学省のグローバルCOEプログラムに採択され、「フロンティア生命科学グローバルプログラム-生物の環境適応と生存の戦略-」(平成19年度から5年間)に基づき、世界を先導する先端的生命科学研究を推進する中で、国際社会で活躍できる研究者を養成する国際的に卓越した拠点の形成をめざします。

- 生物の環境適応と生存の戦略の解析と統合を目指す先端科学技術分野に係わる高度な研究の推進
- 国際社会で活躍できる研究者の養成
- 環境問題・食料問題等の解決へ向けた社会貢献
- 学生に対する経済的支援:グローバルCOE-RA(リサーチアシスタントシップ) 後期課程学生全員に対して毎月経済的支援を行う。
- 国際学生ワークショップ、国際ゼミナール、海外インターンシップなどを通じて学生の幅広い視野と国際性を高める。

これらを具体的な目標とし、日中米の先端生命科学研究ネットワークを構築することによって、研究人材育成に取り組めます。



文部科学省大学院教育改革支援プログラム「2コース制によるバイオ人材育成プログラム」

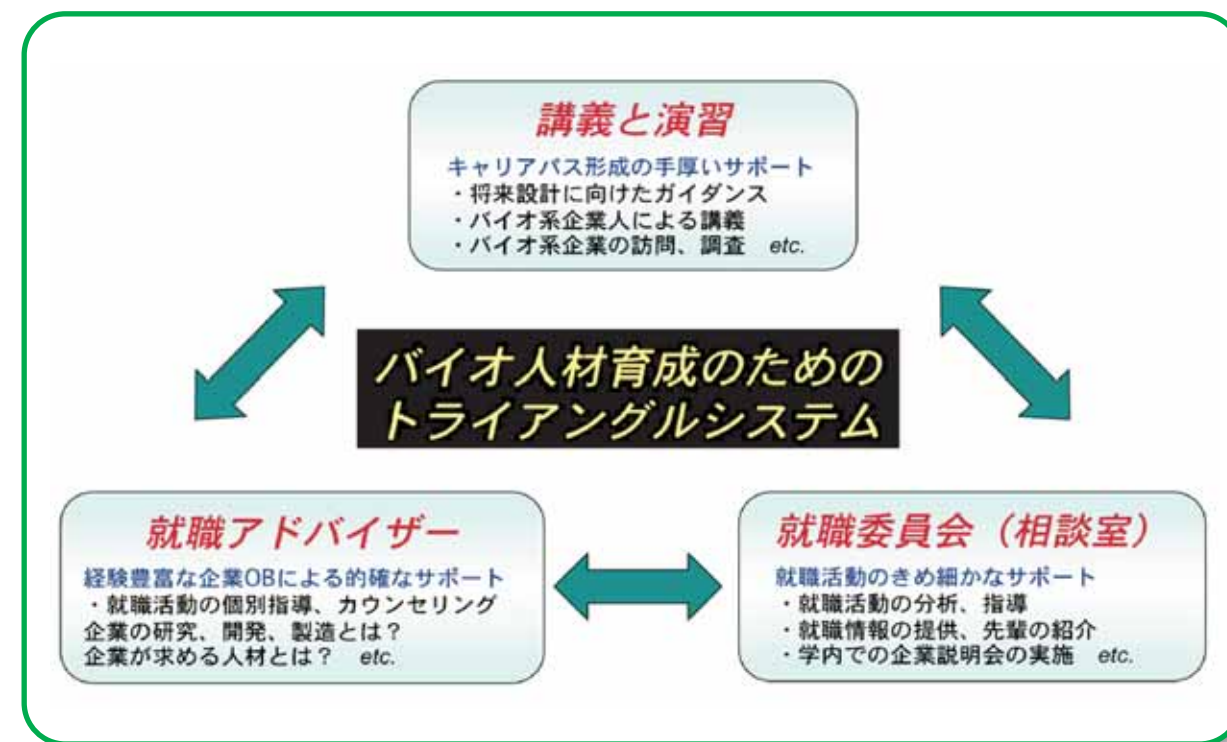
バイオサイエンス研究科では、平成16年度から2コース制を取り入れ、入学してくる学生の多様な学習歴やさまざまな進路希望に応じた、きめ細かな教育と研究指導を行える教育プログラムをつくってきました。平成19年度に大学院教育改革支援プログラムに採択された「2コース制によるバイオ人材育成プログラム-キャリア設計とプロセス管理を重視した大学院教育の先導的取り組み-」(平成19年度から3年間)では、さらに大学院教育の実質化を推進します。

- 高度な知識を生かして企業で活躍できる人材を育てるためのキャリアパス設計指導の強化
- 優れた研究により課程を修了することを支援するアドバイザー制度の導入
- IT化による柔軟な学習システムの整備
- 先進的な教育体制を支える教員の更なるスキルアップ

これらの点を重点的に進めていきます。企業活動を体験するプログラムや前期課程学生の海外での英語研修、さらにはキャリアパス形成を支援する講義、演習を導入し、バイオサイエンス教育の先導的なモデルを構築します。

バイオサイエンス研究科の就職支援体制「バイオ人材育成のためのトライアングルシステム」

バイオサイエンス研究科は充実した就職支援体制で、キャリアパス形成を強力にサポートします。



横手 麻奈美 テルモ株式会社 医療器開発技術課
(平成19年度 博士前期課程修了)

私は現在、医療機器の開発・改良といった業務に携わっています。細胞生物学的な知識も必要とされると同時に、プラスチック等の原材料や設計図面といった知識や技術も必須とされ、私にとっては未知の領域も多くはありますが、専門知識と共にNAISTで学んだ物事の取り組み方といった技術者としての基礎的な部分がどれだけ大切かということを実感しています。そして就職活動では教授をはじめとするスタッフの方々の厚い支援はもちろん、志望業界を熟知された就職アドバイザーの先生方の的確なアドバイスもあったからこそ、現在の私があると考えています。



井上 倫宏 味の素株式会社 発酵技術研究所 単離精製技術開発室
(平成19年度 博士前期課程修了)

私は現在、菌によって作り出された発酵液からシイタケと鰹節のうま味成分であるイノシン酸とグアニル酸を単離精製する技術を開発しています。味の素は学内でリクルーター面接が行われた時に偶然出会った企業です。社会情勢などに疎い私は、会社「味の素」の実情を就職アドバイザーの方々に教えていただき非常に参考になったことを覚えています。また、学生が気にかかる些細なことに対しても真剣に相談に乗っていただき、精神的な支えになっていただいた学生も多かったと思います。NAISTは研究分野では他に類を見ない最先端で充実した環境が整っているということは良く知られていますが、その後の育成された人材を社会に排出する時のアフターフォローにも力を入れている大学であると思います。



村上 未玲 武田薬品工業株式会社 医薬研究本部 創薬第1研究所
(平成17年度 博士後期課程修了)

就職アドバイザーの先生方は本校の雰囲気と同様、ホスピタリティーそのものでした。エントリーシートから発表資料まで丁寧に添削し、熱心に個人と向き合い、粘り強くディスカッションをして下さいました。試験に落ち続けて落ち込んでいる時に、電話で一息懸命励ましていただいた事もありました。全力で就職活動に取り組む人に、アドバイザーの先生方は間違いなく全力で向き合ってください。後悔をしないように全力でチャレンジしてください。就職活動は本当につらいですが、全てが終わった時に大きく成長した自分を実感できるはずですよ。

企業人事担当者からのメッセージ



田中 隆治
サントリー株式会社
技術監

最初の採用者は仕事の研究を通して、博士号を取得しました。

弊社は酒類飲料、食品飲料、健康志向飲料、健康食品ならびに花事業と、消費者に明るく健康に過ごして頂く製品をお届けしています。食と環境の安全と健康をキーワードとして研究開発を行っています。奈良先端科学技術大学院大学からは9年前に修士修了者を初めて迎え、現在は3名、今春の採用者を含めると最近では採用者が増えてきております。バイオサイエンス研究科の卒業生が主になりますが、協調性を保ちながらも独創性を損なわない、着実な頑張り研究員が多く、最初の採用者は仕事の研究を通して博士号を取得しました。この先輩に続く研究者が継続して生まれ出てくれることを望んでいます。

修了生からのメッセージ



高橋 和利
京都大学
細胞-物質融合拠点
iPS細胞研究センター
(平成16年度博士後期課程修了)

素晴らしい環境下で全身全霊を研究に注いでみませんか。

私は奈良先端科学技術大学院大学 遺伝子教育研究センター 動物分子工学部門において山中伸弥教授のもとで5年間指導を受けました。分化多能性を有するES細胞の分子基盤を明らかにするという大きな目標を掲げた小さな研究室でした。充実した共通機器や動物実験施設を惜しみなく使用させていただくことができたので、当時の私達にとって研究に集中できる最高の環境であったと思います。また著名な先生方の講義や御指導を受けることができたことは、私の研究生生活のスタートを大いに加速してくれたと思います。

現在は京都大学で引き続き多能性細胞に関する研究を行っており、臨床応用を目指した方向にも研究を展開しています。今になって思うことは、皮膚細胞を多能性細胞に初期化するという大胆とも思える研究をさせてくれた奈良先端科学技術大学院大学は、野心を持った学生さんにとってきっと素晴らしい経験をさせてくれる場所であるということです。在籍当時は気づきませんでした。学生時代の5年間は本当にあっという間に過ぎていきます。素晴らしい環境下で全身全霊を研究に注いでみるのも悪くないのではないのでしょうか？

在校生からのメッセージ ①



宮島 俊介
博士後期課程3年
(九州大学理学部卒業)

一人一人が大学の主役です。

NAISTIは大学院大学ということもあり、それほど多くの学生がいる訳ではありません。ですから、一人一人の大学院生が大学の主役であり、私たちを対象とした様々な支援があります。そのサポート体制は他の大学と比べるとかなり充実していると思います。

また、研究設備の充実度に関しては、他大学に引けを取らないと感じています。詳しくはWebサイトに掲載されていますが、最新の顕微鏡などNAISTIには私たちの研究を十二分にサポートしてくれる設備が整っています。

また、NAISTの教育活動の特徴の1つとして、プレゼンテーション能力を高めるためのカリキュラムを挙げることができると思います。NAISTのバイオサイエンス研究科ではサマーキャンプや中間報告会などを通じ、多くのプレゼンテーションの機会があります。その過程で、自らの研究を「興味深く」伝えるための能力を向上させる事ができると思います。

正直、NAISTの特徴を挙げるときりがありません。ですので、ぜひ大学を直接訪ねてみてください。そして、大学の環境はもちろん、できれば在学生などとコミュニケーションをとって、直接NAISTを感じてみるのはいかがでしょうか。

在校生からのメッセージ ②



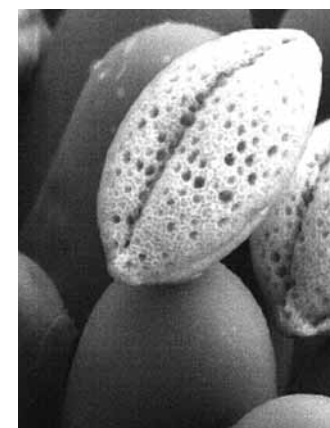
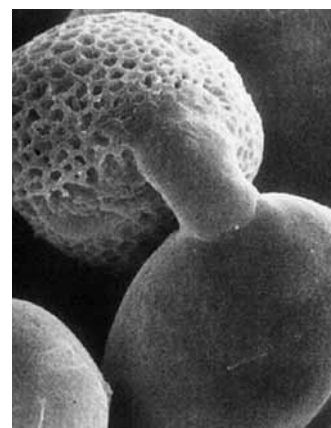
内山 千尋
博士前期課程2年
(新潟大学理学部卒業)

NAISTIは“やるぞ!”の思いにこたえてくれる場所だと思います。

学部時代、私は生物学を学んでいて、さらに学びたいと思っていたのですが、なんとなく大学院へ進むだろうと考えていました。しかし、だんだんとこれでいいのだろうかと思ふようになりました。そして、自分で何か新しい道に進んでみたい、今の状況を変えてみたいと思い、大学院を探し始めたのです。その結果、私はいまNAISTIにいます。NAISTIは充実したカリキュラムと体制が整っており、この一年間学んできたことによって、自分自身成長したと思いますし、大きく変わったと思います。

このパンフレットをご覧になっている皆さんの中にも、なにか変えたいと思っている人は多いのではないのでしょうか。最初の一步は小さくとも(パンフレットをみるとか、大学見学にいくとか)、踏み出すことできっと自分にとって大きな変化になると思います。

NAISTIは“やるぞ!”と思っている人に存分にこたえてくれる“場所”だと思います。



物質創成科学研究科

物質の仕組みを深く理解し新しい物質や構造を創出

人類の未来に役立てる新しい素材・材料を開発するため、次世代を担う創造性豊かな人材を養成します。また、物質と光の相互作用を基礎として物質科学をとらえ直す「光ナノサイエンス」の展開をめざしています。



研究科長のあいさつ



物質創成科学研究科
研究科長 垣内喜代三

物質創成科学研究科では、人類の未来に役立てる新しい素材、機能材料を開発するために、物質の仕組みを電子、原子、分子レベルに立って深く理解し、それに基づいて全く新しい物質や構造を創り出し、また、新規な機能を創造することをめざしています。

具体的には、光と物質の相互作用を基礎として物質科学をとらえ直した「光ナノサイエンス」を推進しています。「光で観る」、「光で創る」、「光で伝える」という観点からの研究を推進することで、物理、化学、生物という既存の学問領域を越えた融合領域を開拓します。その研究成果は、IT分野やバイオテクノロジーのみならず、医療、エネルギー、環境分野

から宇宙科学にわたる広範囲な分野で、次世代の産業や社会に大きな影響を与える基礎技術を提供します。

この研究領域に基づく体系だった教育を通して養成した人材を、これからの産業界、学会を担う優れた技術者・研究者として社会に送り出します。この創造性豊かな人材を養成する取り組みは、「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択されました。

向学心に燃える多くの学生諸君が、優秀なスタッフとともに未来に向けて挑戦してくれることを、そして新たな伝統を築き上げていくことを強く期待しています。

アドミッションポリシー

物質創成科学研究科では、次のような人を求めます。

- ①物質科学や融合領域の創造的かつ先端的な研究を行うことに熱意と意欲を持っている人。
- ②人類社会の諸問題や産業界の要請に強い関心を持ち、技術革新や幅広い科学技術分野での活躍を志している人。

物質創成科学研究科の人材養成目的と教育方針

- 博士前期課程にはα、π、σコースが設置されています。
- 博士後期課程にはα、π、τコースが設置されています。各コースの特徴は以下のとおりです。

αコース（前期、後期課程）

前後期課程で一貫した博士研究指導を行うことで専門領域に関する深い学識と豊かな創造力を有する人材を育成します。積極的な短期修了を目指します。

πコース（前期、後期課程）

融合領域の開拓を担う、複数の専門を有する柔軟で視野の広い研究者を目指し、博士研究の開始において学生がオリジナルな研究テーマを提案して修士研究とは異なる指導教員を自ら選び研究指導を受けます。

σコース（前期課程のみ）

広汎な物質科学の専門知識と方法論を身につけた高度専門職業人を養成します。

τコース（後期課程のみ）

産官学の多様な研究現場で活躍する研究者、技術者に対し、物質科学の高度な専門知識を教授し最先端の研究指導を行います。

博士前期課程では

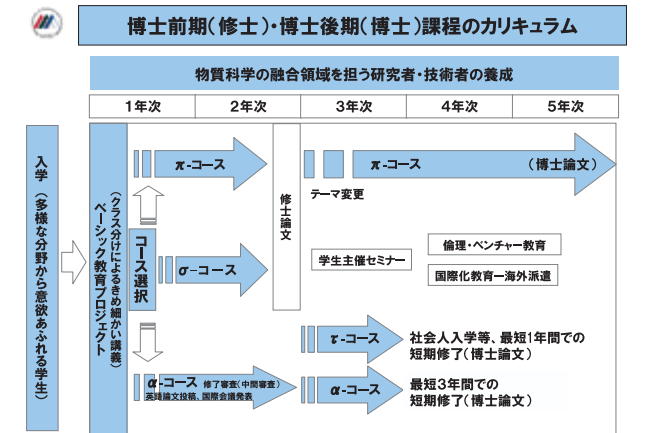
- ①前期課程の授業科目は、4月から9月の春学期に集中して開講されます。
- ②秋学期は、物質科学の融合分野をカバーする集中講義形式の物質科学特論I-IVと英語スキル向上のための英語上級クラスのみが行われています。
- ③特別課題研究や修士論文研究などが、10月から本格的に取り組める日程を組んでいます。
- ④物質科学の広範な分野を網羅し、かつ多様な分野からの入学者に対応するために、物性・デバイス系科目から化学・生物系科目までの幅広い分野で基礎が学べる「基礎科目」を設置しています。

⑤まず4月入学直後に必修科目の「光ナノサイエンス概論」で物質創成科学研究科の全研究室で行われている研究の基礎と概要が、各研究室の教授、准教授により講義され、続いて、物質科学における光ナノサイエンスの基盤となる学術的なプラットフォームの形成のための「光ナノサイエンスコア」が全員必修で講義されます。

⑥光と物質の相互作用を理解するための基本科目「光と電子特講」や有機材料・生体材料の創成に必要な不可欠な基本科目「光と分子特講」、および光ナノサイエンスの先端融合領域開拓に必要な知識を講義する「先端融合物質科学」を開講し、これらの科目では習熟度に応じてエレメンタリークラスとアドバンストクラスのクラス別の講義を行います。

⑦さらに、先端科目や特講が開講され、幅広い科目が聴講できるカリキュラムを採っています。

博士後期課程にも「国際化科目」「融合専門科目」「提案型演習科目」「融合ゼミナール」「総合研究科目」などを設け修了要件単位とします。



※カリキュラムの詳細については、研究科紹介8頁を参照してください。

TOPICS

試験実施方法が変わりました

博士前期課程入学試験では英語の試験を実施しません。

東京入試を実施

7月に行われる第1回博士前期課程入学試験は東京会場（キャンパスイノベーションセンター東京）でも受けられます。もちろん本学（奈良）会場でも受験できます。

学生の研究成果を公開 — 公開研究業績報告会

毎年3月に行われる公開研究業績報告会では、博士・修士修了者の研究成果をポスターで発表します。このうち最も優れた研究については口頭発表も行います。最先端の研究成果に触れて下さい。

最先端研究を体験 — 体験入学会

毎年3月と8月に体験入学会を行います。誰でも、最先端の装置を用いる最先端研究を体験できます。最先端の研究を先取り体験しましょう。

INFORMATION

物質創成科学研究科ホームページ
URL : <http://mswebs.naist.jp/>

「いつでも見学会」(研究室の見学)
URL : <http://mswebs.naist.jp/admission/applicants01.html>

物質創成科学研究科および物質科学教育研究センターでは、随時希望に応じて研究室等の見学を受け付けています。見学を希望される方は、見学希望の講座の教授に電話もしくは電子メールにてお問い合わせください。



物質創成科学研究科は体系的な教育を通して養成した人材を優れた技術者・研究者として社会に送り出します。

物質創成科学研究科の教育と研究

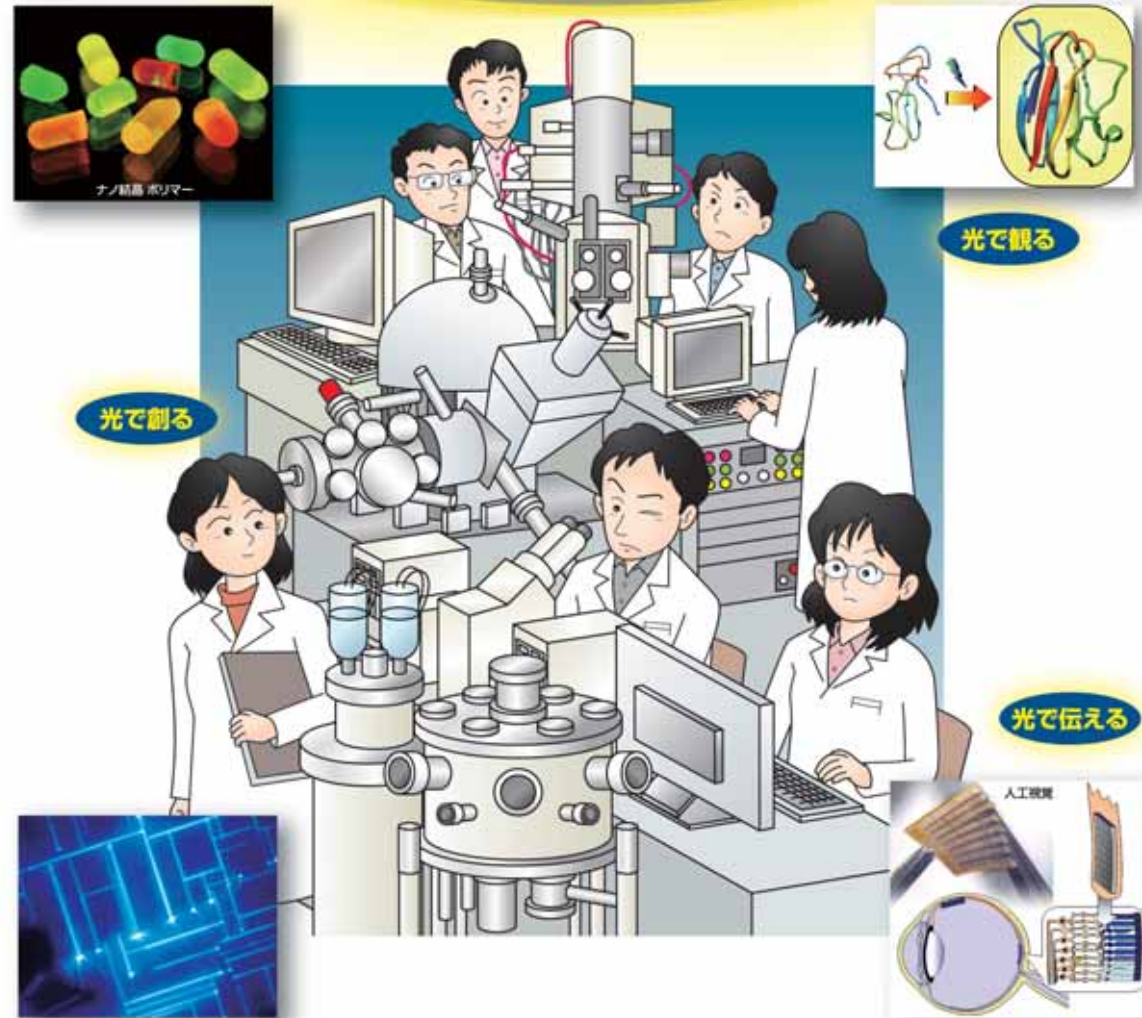
物質科学の先端融合領域を担う研究者の育成 —「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択—

「光ナノサイエンス」を中心に次世代の物質科学を担う国際的人材の育成

- 博士前期(修士)・後期(博士)課程を一貫して研究指導し、最短3年で学位取得(α コース)
- 複数専門性の導入による柔軟で視野の広い研究者・技術者の育成(π コース)
- 入学以前のバックグラウンドや本人の能力に合わせた、きめ細やかな指導
- 博士後期(博士)課程の学生には、授業料相当額の教育研究費補助
- 海外の提携大学への派遣や受入を推進し、国際感覚を向上
- 一人当たりの研究費や特許の数で国際最高クラスの実績を誇る教員

人類の豊かな未来を作る新規機能物質の創成と 基盤となる物質科学の深化

光ナノサイエンス



フェムト秒テクノロジーと光ナノ半導体デバイスで創る次世代フォトニック信号処理

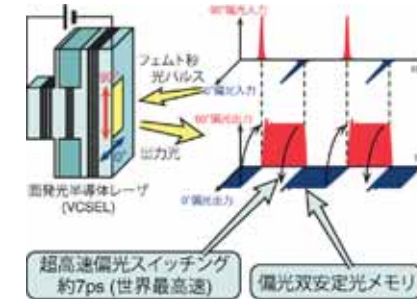
物質創成科学研究科 / 超高速フォトニクス講座

高度情報化社会を支える重要なインフラのひとつが光ファイバ通信です。現在の光ファイバ通信幹線では、1秒間に10ギガビットの情報量を伝送することができますが、通信量の爆発的な増加に伴い、近い将来、処理能力が不足すると予想されています。この問題を解決するために、超高速フォトニクス講座では、現在の通信量の10万倍にあたる、1秒間に1ペタビットの情報を送る未来の超高速光通信ネットワークの実現を目指して研究を進めています。現在の光通信では、中継点において光を電気信号に換えて信号処理をしているため、この電気信号の処理速度がシステム全体の速度を制限してしまいます。目標とするペタビットネットワークを実現するには、光信号を直接光で制御する全光型信号処理の実現が必須です。特に、現在の電子回路を用いたメモリに替わる、光信号を光の状態に記憶する全光型メモリを開発する必要があります。

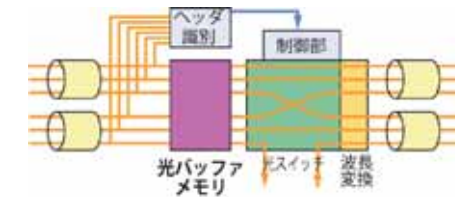
本講座では、面発光半導体レーザー(VCSSEL)を用いた光メモリを独自に提案し研究を進めています。正方形の光導波路を持つVCSSELの発振状態には、直交する二つの偏光モードが存在します。VCSSEL以外

部から光パルスを入射すると、VCSSELの偏光方向は入射光パルスと同じ偏光方向にスイッチされ、入射光が無くなった後もスイッチした偏光方向は維持されます。この現象を利用し、VCSSELの偏光方向を“0”と“1”のデータとして用いる全光型メモリ機能を実現することができます。本講座では、実際に光メモリシステムを構築し、その動作を実験的に実証することに成功しました。現在、次世代光通信ネットワークへの応用を目指してさらなる研究を進めています。この他にも、量子コンピュータや量子情報通信技術を実現するための新しい光デバイスに関する基礎研究も行っています。

本講座の大きな特徴は、VCSSELのような半導体光デバイスを作製する際の最初の工程である結晶成長から、物性評価、デバイスの作製・特性評価、及び作製したデバイスを用いた光信号処理システムの構築までを一貫して行うことのできる研究環境が整っていることです。この環境を最大限に活かし、半導体光エレクトロニクス技術を基盤とした未来の超高速情報処理に寄与する技術を生み出すことを目指しています。



面発光半導体レーザーの偏光スイッチ



光バッファメモリを用いた光パケットスイッチノード



面発光半導体レーザー2次元アレイの電子顕微鏡写真

光応答性生体分子や合成超分子を創って利用する

物質創成科学研究科 / 超分子集合体科学講座

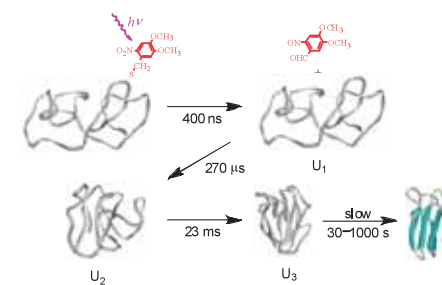
タンパク質やペプチドは、生体内の様々なところで機能性物質として働いています。これらの生体分子の立体構造を高い空間分解能と時間分解能で制御できれば様々な利用法があり、特に、生体内計測分析や医療への利用が期待されます。超分子集合体科学講座では、光応答性タンパク質やペプチドを創製し、これらの分子の構造制御を利用した新規計測分析技術や材料の開発、生命現象の解明を行っています。

例えば、タンパク質が機能するためには特定の高次構造をもつ折り畳んだ状態を形成することが必須ですが、タンパク質の構造形成反応に関して1ミリ秒よりも早い初期過程での知見は依然少なく、この構造形成反応の初期過程を観測できる新しい研究手法が待ち望まれています。本講座では、タンパク質から光解離する修飾基を用いて、光でタンパク質の構造形成を開始させる新規手法の開発に成功し、タンパク質の構造形成に関する新しい事実を明らかにしました。この手法によりタンパク質間の相互作用を光制御することも可能であり、細

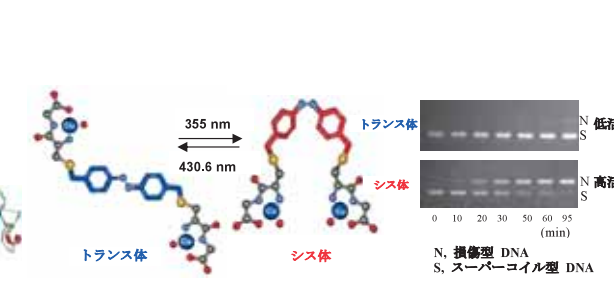
胞内計測などへの応用が期待されます。

金属錯体にはDNA切断能を有するものがあり、人工酵素や新しいがん療法の開発などへの利用が期待されています。本講座では、可逆的にシストランス光異性化する銅錯体を合成し、DNA切断活性を光制御することに成功しました。

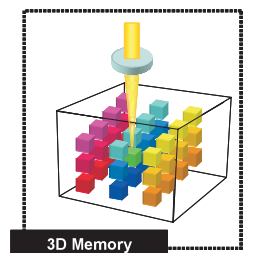
さらに本講座では、超分子科学と有機合成化学を駆使することによって「複合機能システム」を人工構築する研究も精力的に行っています。これは仕掛けを持った分子群を化学合成し、自己組織化させることによってそれぞれ単独では見られない新しい機能を発現させるというコンセプトに基づいています。具体的には現在、光を利用した分子変換触媒、超分子反応場、人工光合成、超分子配線技術などのテーマに取り組んでいます。また、二光子吸収と呼ばれる三次元位置選択的な光学現象に注目してがんを選択的に光治療するための薬剤開発や三次元光記録材料などの未来の光機能材料の開発を行っています。



タンパク質の構造形成の光制御。本講座で開発した手法を用いてタンパク質の構造形成反応を観測することに成功しました。



DNA切断の光制御。右上の図で、トランス体ではDNA切断は見られませんが、シス体ではDNAはスーパーコイル型から損傷型へ変化しています。



三次元光記録材料。

企業人事担当者からのメッセージ



神之門 司

シャープ株式会社
人事部 人事部
採用担当部長

多くのNAIST出身者が新しいデバイスや素材の研究に従事しています。

エレクトロニクス業界では、従来の利便性の追及だけでなく環境や健康といった分野への事業開拓が進んでおり、それを支える新材料の開発が急務となっています。当社では、貴研究科との連携講座である知能物質科学講座において、次世代メモリや次世代表示デバイス、次世代半導体材料などの最先端分野をテーマとした講座を開設させていただき、NAISTの学生さんと共に当社事業の将来を担う重要な研究に取り組んでいます。

一方、企業における研究開発では最終的に部品や商品といった事業に結びつけることが成果となります。その研究の担い手には深い専門性を持った人材（当社ではI字型人間と呼んでいます）であることに加え、幅広い分野の知識を習得した人材（T字型人間）であること、さらに、技術だけでは解決しない多くの問題を乗り越え物事をやりとげる強い意志を持った人材であることが求められます。

現在シャープでは、物質創成科学研究科出身の20余名をはじめとする100名を超えるNAIST出身者が、当社の主要事業である液晶や太陽光発電、新材料等の研究部門で新しいデバイスや素材の研究に従事しています。今後もNAISTとの連携を一層強め、より多くの優秀な卒業生に当社で活躍いただきたいと望んでいます。

修了生からのメッセージ



西岡 賢祐

宮崎大学工学部
(平成15年度博士後期課程修了)

自分自身を磨くための土壌がNAISTにはあります。

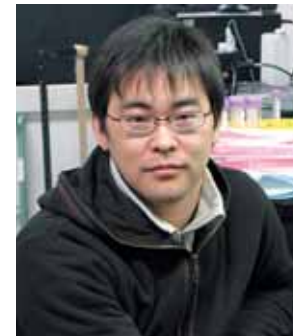
創設以来、NAISTが日進月歩で進化し続けていることは、学外にいても感じ取ることができます。これは、様々な大学・分野から挑戦して来る学生のモチベーションの高さと、それに応える大学スタッフの努力によるものだと思います。

私は、NAISTの博士後期課程を修了し、北陸先端科学技術大学院大学の助教を経て、現在、宮崎大学で准教授として研究を続けております。教員という立場で大学での教育・研究に携わり、活発な学生が思う存分活躍できる研究環境を提供することがいかにエネルギーを要することかを痛感すると同時に、私自身が学生時代に、本当に恵まれた研究環境の中で育てていただいたということを実感しています。

大学にとってはもちろん、日本にとって、将来の科学技術を担う可能性を秘めた学生はまさに「宝」であり、だからこそスタッフも真剣です。NAISTに入学される皆さんには、自分たちが貴重な存在なのだということを自覚して、自分自身を磨いていただきたいと思ひます、そのための土壌がNAISTにはあります。

異なる環境で学部を卒業した友人たちと切磋琢磨できたのも本当に良い経験となりました。技術や知識はもちろん、是非、すばらしい仲間をNAISTで得てください。

在校生からのメッセージ ①



山口 繁生

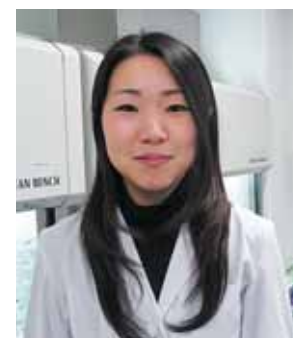
博士後期課程3年
(大阪大学理学部卒業)

先生方の熱心な教育が最大の魅力です。

本学は大学院大学であるため、基本的には研究を中心においた組織です。このため、学内には最新の研究設備・機器が充実しており、学生の研究活動の大きな支えとなっています。研究面以外にも、福利厚生施設が充実しており、学生が集中して研究に打ち込める環境が整えられています。本研究科の最大の魅力として先生方の熱心な教育があります。ただの成果主義ではなく、学生一人ひとりの将来を見据えた指導方法を真剣に話し合い、それを実践して下さっています。更に、これはひとつの講座に閉じたことではありません。本研究科には、スーパーバイザーボードという制度があります。ここでは、他講座の先生方から研究指導を受けることができます。ここで得られた研究分野の枠を超えた意見を自らの研究に取り込むことにより、より有意義な研究へと発展させることが可能となっています。他にも、学生からの優れた研究計画に研究費の支援を行うという競争的研究支援制度があります。これは将来研究者となって、自ら研究資金を獲得し、それを運用していくための良い訓練となるでしょう。

これから真剣に研究に打ち込もうと考えておられる学部生の皆さん、本学で多くのことを学び、有意義な研究生活を送りませんか？

在校生からのメッセージ ②



藤井 茉美

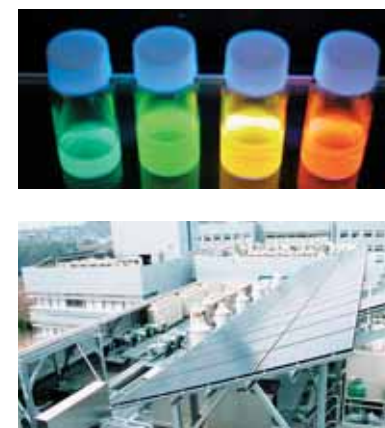
博士前期課程2年
(神戸市立工業高等専門学校
専攻科電気電子工学専攻卒業)

本学特有の環境は、学ぶ意欲の高い学生にとって魅力的です。

私が本学を進学先として選んだ理由に、実験設備のすばらしさがあります。他の大学等へも見学に伺いましたが、本学は格段に充実していました。また、大学院大学である為に学生に対する先生方の割合が多く、十分な指導をしていただけたと考えました。入学後も期待通りで、現在は博士後期課程への進学を踏まえた一貫コースで研究に励んでいます。また、海外との交流も盛んで、世界でもトップクラスの研究者や研究機関に関わる機会が多くあります。さらに、スーパーバイザーボードという他にはない制度があります。これは、一人の学生に他講座の教授を含めた4~5人の先生方がサポートに付き、指導をしてくださるというものです。こういった制度のおかげで専門分野に偏らない広い知見を得ることができ、研究を進める手助けとなります。

本学は学生宿舎が併設していることで時間を気にせず研究に打ち込める環境が整っています。また、日本有数の歴史的都市でもある奈良で、プライベートも含めて毎日を楽しみ過ごせる事と思います。最近では学校近辺に大型量販店がオープンしたことで、寮生活も便利になってきました。

このような本学特有の環境は、学ぶ意欲の高い学生にとっても魅力的ではないかと思ひます。





キャンパスマップ

CAMPUS MAP

関西学術研究都市にふさわしく、最先端の施設を完備

附属図書館 2

本附属図書館は、先端科学技術（情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学）に関する教育・学術研究活動を支援するために設立されました。必要な学術情報を迅速・正確に提供するため、資料をデジタル化（電子化）して蓄積し、ネットワークを介して利用者に提供する電子図書館を構築しています。このため本学図書館は、図書・雑誌を冊子体で閲覧するだけでなく、冊子体や授業アーカイブを含むビデオなどのマルチメディア情報を統合化したデータベースを構築して、図書、雑誌、CD-ROM、ビデオ資料などのメディアの種類を意識しないで、情報を検索閲覧することができます。なお、電子化されていない資料についても、本学の教職員および学生は24時間利用できます。



電子図書館の主なサービス

1 学内生産物の組織的な保存、管理

学内の教員、研究者および学生などが生産するテクニカルレポート、科学研究費補助金研究成果報告書、学位论文などの研究成果、また学内で行われる招待講演なども、著者または講演者から、インターネット経由で利用する許諾を得た上で、デジタル情報として収集し、データベース化することで一元的な保存、管理および提供を可能にしています。

2 大学における教育活動との直接的連携

研究科における授業をデータベース化して公開する取り組み「授業アーカイブ事業」を平成17年度から試行しています。

3 メディアセンター機能

雑誌・図書などの画像情報・文字情報ならびにビデオテープやDVDなどの映像音声情報をデジタル情報として一元的に管理することによって一体的に利用することができます。

4 高度な情報検索

書誌・目次・抄録情報のみでは実現不可能な、きめ細かい高度な検索機能を提供しています。

5 リアルタイムでの利用

ネットワークを介して、デジタル資料を時間的遅延なしに入手することができます。

6 同時利用の実現

デジタル資料は貸出中の心配がなく、複数利用者が同時に閲覧できます。

7 新着情報通知機能 (SDI)

本文テキストをデータベース化することにより、利用者があらかじめ登録したキーワードに合致するデジタル資料の新着情報を電子メールで自動通知します。

マルチメディア提示室

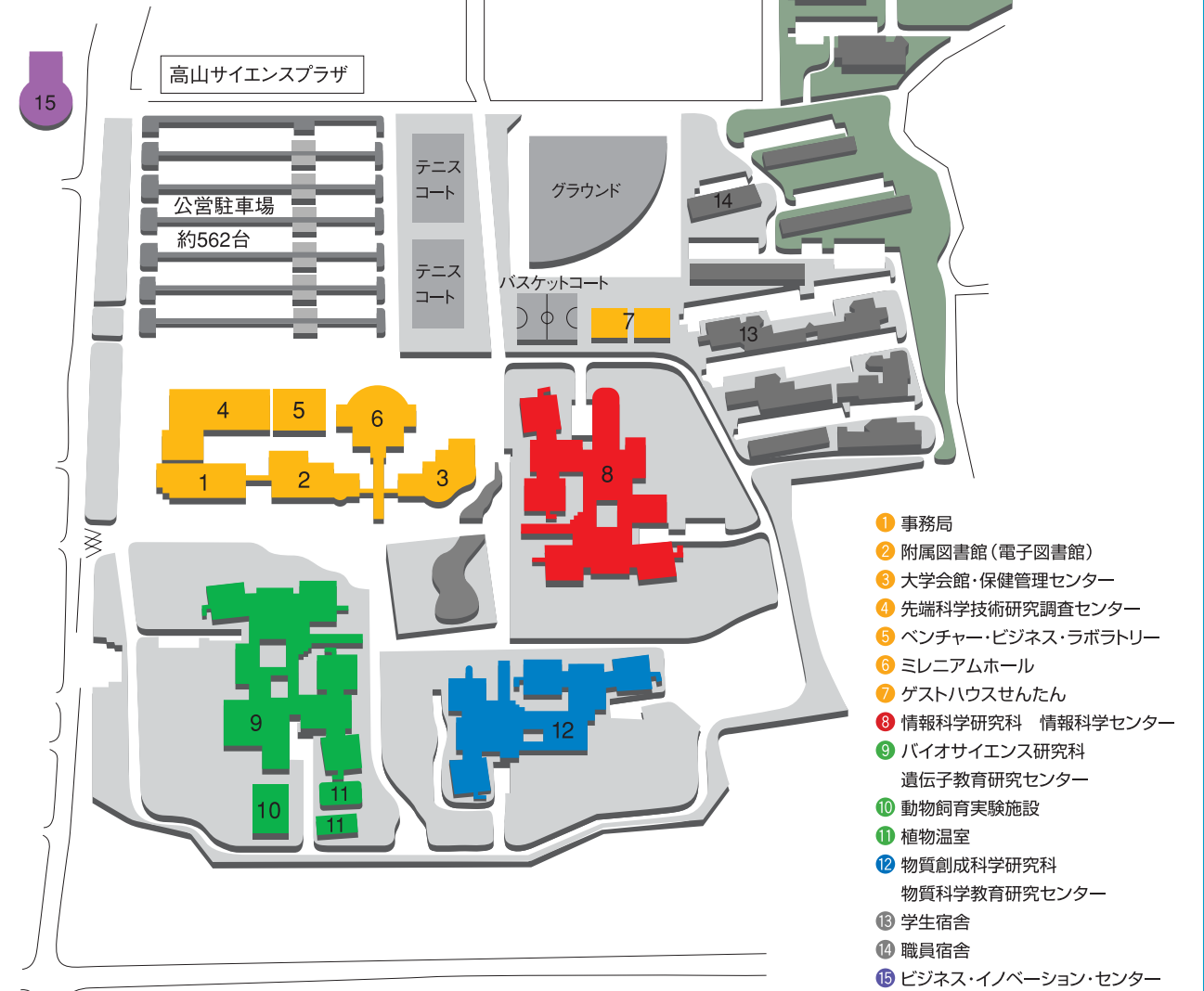
マルチメディア情報を用いた講義・講演・ミーティング等を行うための部屋。高品質な映像・音声情報を視聴することができ、各機器はネットワークに接続されており、電子図書館だけでなく、インターネットなど様々な情報が利用できる提示室もあります。この他にマルチメディア製作・編集室では、高品質な映像・音声情報を製作・編集することができます。

◆電子図書館はWWW (World Wide Web) のブラウザ環境があれば、いつでもどこからでも利用できます。図書や雑誌の書誌・所蔵情報や目次情報だけでなく、全文をそのまま画像イメージで、研究室などの端末から検索・閲覧することができます。



| 公営駐車場定期駐車券【本学学生】 | | | |
|------------------|--------|------|---------|
| 1ヶ月 | 1,500円 | 3ヶ月 | 4,000円 |
| 6ヶ月 | 7,500円 | 12ヶ月 | 13,500円 |

※申込みは、大学会館内売店にて
※定期駐車券は、駐車スペースの確保を約束するものではありません。



福利厚生施設

大学会館 3

学生および教職員の厚生施設である大学会館に、食堂（300席）、喫茶室（30席）、売店を設けています。売店では、文房具、書籍をはじめ、各種食料品などを取り揃えており、さらに、D.P.E、クリーニング等の取次ぎサービスも行っています。



大学会館

ゲストハウスせんたん 7

本学を来訪する内外からの研究者をはじめ、学生や教職員が利用することのできる福利厚生施設です。宿泊施設は手頃な料金で利用することができ、受験時の宿泊にも利用できます。施設内には宿泊者などが利用できる集会室やフィットネス室が設けられています。利用申し込みは、人事課福利厚生係（0743-72-5033）までお問い合わせください。



ゲストハウスせんたん

保健管理センター 3

学生および教職員の身体的、精神的健康の保持・増進をはかることを目的としています。内科医師および、看護師が常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。また、センターには、診察室、学生懇話室、休養室を設けています。

スポーツ施設



グラウンド



テニスコート



バスケットボールコート



フィットネス室

ミレニアムホール 6

入学式や学位記授与式、会議、講演などを行うことができる、多目的ホールです。





情報環境

本学では、先端科学技術に関する必要な情報をいつでも迅速に入手でき、教育研究活動を支援するための充実した情報環境の構築を推進しています。

● 曼陀羅ネットワーク(10ギガビット/秒クラスの高速基幹ネットワーク)

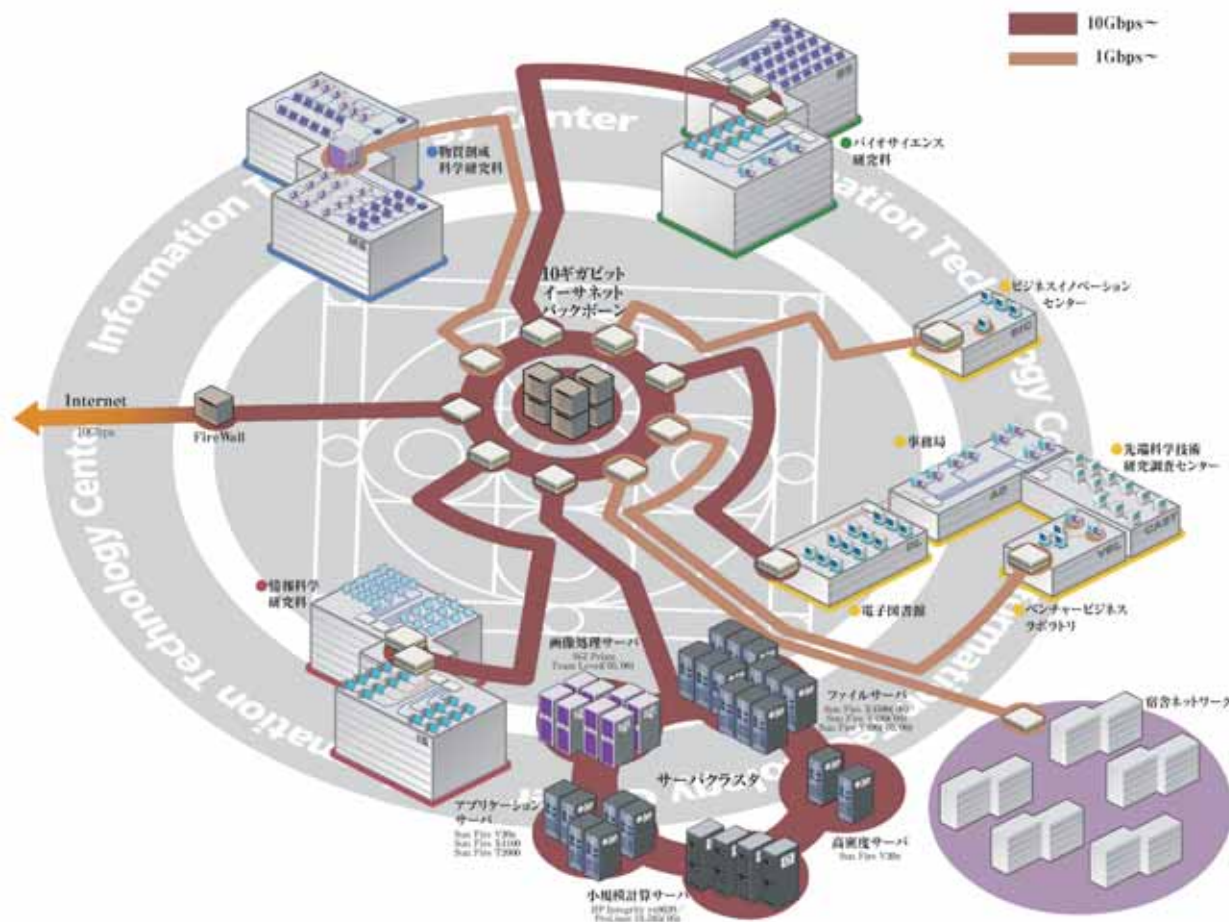
本学では、あらゆる分野において最先端の教育研究を支援するため、「曼陀羅ネットワーク」と呼ばれるコンピュータネットワークシステムが整備されています。曼陀羅ネットワークは、超高速キャンパス基幹ネットワークとして8ギガビット/秒のデータ転送速度を持つネットワークスイッチを採用し、研究科の各フロアには最高5ギガビット/秒のデータ転送速度を提供しています。インターネットへの接続は、国内の複数の高速基幹ネットワークに対して10ギガビット/秒の速度を持つ専用線を用いて接続しています。また、キャンパス全体で利用できることを目標に、無線LAN利用可能エリアを拡大中です。

基本的に、Windowsマシン、Macintosh、マルチプラットフォーム対応端末などが提供されており、各人のコンピュータから研究科の各フロアに設置された共用のプリンタやイメージスキャナが自由に利用できます。さらに、研究発表の際に使用するプレゼンテーション作成のために、フルカラープリンタや高解像度イメージスキャナ、フィルムスキャナ、フィルムレコーダなどの専門的機材も自由に利用可能です。

曼陀羅ネットワークに接続された合計1ペタバイトの大容量記憶装置や、リモート利用可能なギガフロップクラスの計算サーバは、瞬時に計算処理・転送することが要求される最先端の研究に充実した情報環境を提供しています。

曼陀羅ネットワークを効率的に利用するために、学内利用者に対して一人一台のコンピュータ(UNIX ワークステーションを

【曼陀羅システム構成図】

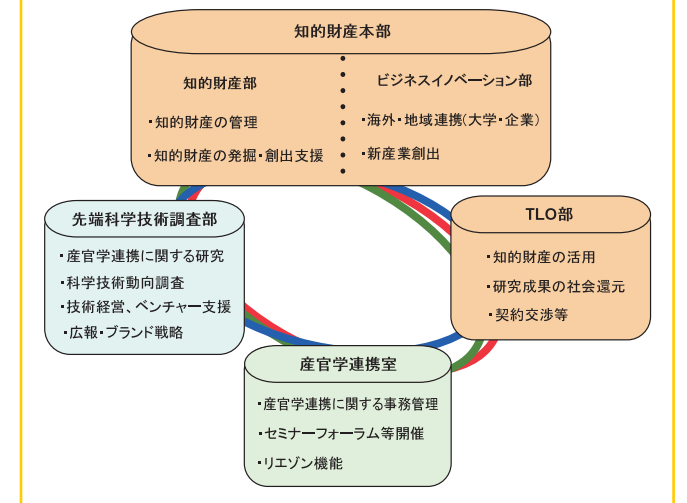


産官学連携

本学は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの構築等、産官学連携を積極的に推進しています。平成16年には、産官学連携推進本部(図参照)を設置し、教育研究スタッフと事務局が一体となって産官学連携活動を活発に行っています。

こうした取組みの成果の1つとして、本学の外部資金の獲得が全体では約30億円となり、教員1人当たりで考えると約1,500万円、またライセンス収入においても全体では約4,800万円となり、教員1人当たりで考えると約22万円と全国の大学でもトップレベルとなるなど、高い実績を挙げています。

産官学連携推進本部



リエゾンオフィス

本学では、首都圏との産官学連携を有機的に進めるために、東京にリエゾンオフィスを開設しています。さらに、地域との連携を深めるために、中小企業の街・東大阪市にもリエゾンオフィスを設けています。



東京事務所



東大阪事務所

奈良先端科学技術大学院大学支援財団(高山サイエンスプラザ内)

奈良先端科学技術大学院大学の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、平成3年に設立されました。同財団の基本財産(20億円)の運用費により、教育研究活動、国際交流、学術研究成果の普及活動等に対する支援事業が行われています。



高山サイエンスプラザ

大学の隣接地に、本学の支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、その施設内にもレストラン、売店、研修室、現金自動預払機(南都銀行)等が設けられています。



研究活動等に対する支援

NAISTでは、教育研究の充実・活性化を図るため、外部資金や科学研究費補助金などの多様な研究費の導入を積極的に図り、研究基礎の充実を図るとともに、研究の担い手としての大学院生の処遇を改善することに努めています。

基本構想 大学院学生は、学生としての側面とともに、若手研究者としての側面を持ち、大学院における研究の担い手としての役割も有している。大学院生のこのような諸側面に留意しつつ、その適切な処遇を図ることとする。

実施状況

ティーチング・アシスタント (TA) 制度の実施

NAISTでは、大学教育の充実と大学院学生への教育トレーニングの機会を提供するとともに、これに対する手当ての支給により、大学院学生の処遇改善の一助とするためTA制度を平成6年度から実施しています。博士前期課程2年以上の学生を対象として、講義資料の収集・整理・作成補助やレポートの採点補助及び実験の指導補助に従事し、指導・教育方法を学ぶことを積極的に進めています。

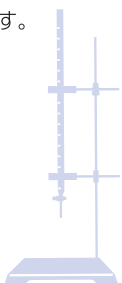
【平成19年度採用実績】 340名採用
待遇/年間22~473時間 (時給1,200~1,300円)
※担当時間数・時給については、課程・在籍研究科や予算措置状況により一律ではありません。



リサーチ・アシスタント (RA) 制度の実施

RA制度は、国立大学などにおける研究支援体制の充実・強化並びに若手研究者の養成・確保を促進する方策として、優れた大学院後期博士課程在学者を研究プロジェクトの研究補助者として参画させ、学術研究の一層の推進を図るため、文部科学省が平成8年度から導入したものです。本学では、平成7年度からRA制度を全国の大学に先駆けて自主財源で実施しており、平成8年度から導入された文部科学省のRA制度と併せて研究支援体制などの一層の充実・強化を図っています。また、グローバルCOEプログラムを活用して、COE-RAを雇用しています。

【平成19年度採用実績】 107名採用
一般的待遇/年間 76~384時間
(時給1,300円)
※担当時間数は、予算措置状況により変わります。



大学院教育改革支援プログラム

NAISTは大学院の優れた組織的、体系的な教育の取り組みに対し、重点的な支援を行うため文部科学省が平成19年度からスタートした大学院教育改革支援プログラムに、「創造力と国際競争力を育む情報科学教育コア」と「2コース制によるバイオ人材育成プログラム」の2つのプログラムが採択されています。新しい教育プログラムを通して、組織的な教育プログラムの充実を進めています。



積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金やグローバルCOEプログラム、支援財団による助成事業などにより、学生が海外の国際学会等において論文(研究)発表するための費用(渡航費、滞在費等)に対する助成を積極的に行っています。

【平成19年度海外派遣支援状況】
被支援人数 176名
一人当平均支援額 18万円
(平成20年3月21日現在)



奨学金

①日本学生支援機構奨学金(旧:日本育英会奨学金)
学業・人物ともに優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には、本人の希望に基づいて選考の上、貸与されます。日本学生支援機構奨学金には、無利子の第一種奨学金制度と有利子のきぼう21プラン奨学金制度があります。第一種奨学金の貸与をうけ、在学中に特に優れた業績をあげたものとして支援機構が認定したものには、学資金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

| | 入学時貸与月額等 | |
|------------|------------|-------------|
| | 第一種奨学金 | きぼう21プラン |
| 前期課程 | 88,000円 | 次の受給額から選択 |
| 後期課程 | 122,000円 | 5・8・10・13万円 |
| H19年度入学貸与者 | 272人(100%) | 63人(100%) |

()内は貸与率(貸与者/貸与希望者)。この貸与率は追加採用を含む平成19年度最終実績である。

②その他の奨学金

NAISTでは、日本学生支援機構奨学金の他に昭和教養振興財団奨学金、文部科学省私費留学生奨励費等の奨学金制度に採択されています。

入学金・授業料免除、入学金徴収猶予

経済的理由により入学金又は授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び入学前1年以内に、学費負担者が死亡し、又は学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、入学金又は授業料の納付が著しく困難であると認められる者に対し、選考の上、入学金又は授業料の全額又は一部を免除する制度があります。また、入学金免除には、併せて入学金徴収猶予の制度もあります。



学生教育研究災害傷害保険

この保険は、入学後の実験、実習等の正課中及び課外活動中の災害事故に対する全国規模の補償制度です。万一被災者となった場合、例えばその治療に長期間を要することになれば、本人はもとより家族の経済的・精神的負担は相当なものになることが予想されます。従って、本学ではそのような場合の負担を少しでも軽減するために、比較的安い保険料で加入出来るこの保険に、入学時、全員加入していただきます。

●保険料

博士前期課程 2,100円
博士後期課程 3,050円



学生なんでも相談室

NAISTでは、大学院生活を送るうえで、さまざまな問題や悩みに直面することがあると思います。そういった学生生活を支援するために「学生なんでも相談室」を設けて、問題解決のアドバイスを行っています。





学生宿舎

NAISTでは、619戸の学生宿舎を用意しています。研究活動に十分な時間を確保するためには、相当な負担を必要とし、居住費の低廉な学生宿舎へ入居することが、時間的・経済的な負担を軽減する一助となっています。また、24時間体制で研究活動をサポートするため、学生宿舎内には学内LANも配置され、宿舎にいながら電子図書館や国内外の学術研究機関へのアクセスが可能となっています。

【入居者の選考方法】

入居者の選考は、主に入学試験の成績をもとに決定しますが、実家と大学の距離などの条件によっては、入居許可されない場合もあります。

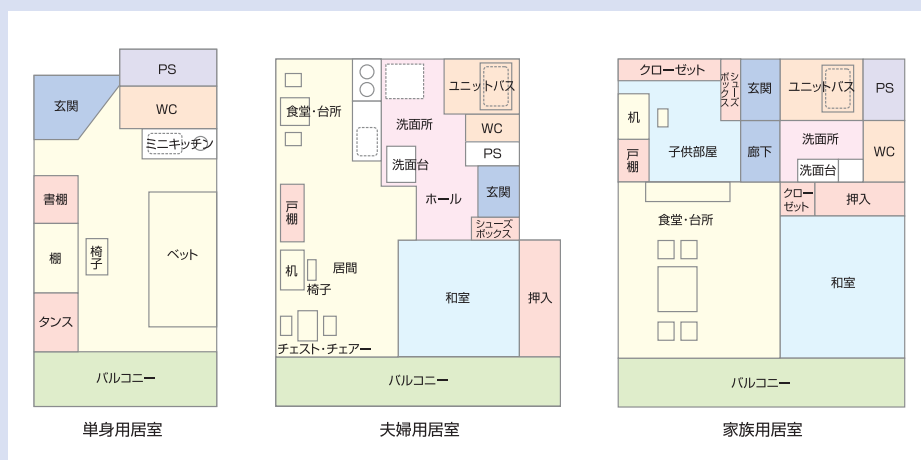
【平成19年度入学者に係る入居状況】

| 博士前期課程 | 博士後期課程 | 備考 |
|-----------|-----------|--------------------|
| 164人(62%) | 60人(100%) | ()は入居率(入居者/入居希望者) |

| | 単身用 | 夫婦用 | 家族用 |
|------------|-------------------|---------------------------|--------------------------|
| 居室数 | 559室 | 50室 | 10室 |
| 居室面積 | 13m ² | 36.98~41.45m ² | 51.56m ² |
| 設備等 | 机、ベッド、ミニキッチン、トイレ等 | 机、キッチン、トイレ、浴室、ランドリースペース等 | 机、キッチン、トイレ、浴室、ランドリースペース等 |
| 共有設備 | 浴室、ランドリー室、ラウンジ等 | | |
| 寄宿料(共益費込み) | 月額 10,000円 | 月額 12,500円~13,300円 | 月額 15,300円 |
| 光熱水料 | 入居者負担 | 入居者負担 | 入居者負担 |



単身用居室



単身用居室

夫婦用居室

家族用居室

学生宿舎619戸 全戸インターネット常時接続可能(無料)

【学生宿舎駐車場】 駐車場は249台あり、利用希望者のほぼ75%程度が割当てを受けています。割当てを受けることができなかった者は、公営駐車場を利用しています。なお、学生宿舎入居者が駐車場を利用するにあたっては、半年あたり3,000円~4,000円程度が必要です。



利用者の声

OIKAWA MARINA ATSUMI (情報科学研究科 博士前期課程1年)

NAISTの学生宿舎での生活は、私にとって良い経験であり、その印象は入居前から変わっていません。ここに住むまでは、色々心配していましたが、宿舎のスタッフはとても親切でした。部屋には家具が備え付けられていますので、あれこれ心配することなく新生活を始めることができます。立地も便利で、宿舎がキャンパス内にあり、研究科建物との行き帰りの時間を気にする必要がないので夜遅くまで研究することができます。キャンパスや宿舎周辺は安全で、私や周りの住人達はこれまで何の問題も感じていません。宿舎では、留学生や他の研究室の学生と出会い、友達になることもできます。

大学借り上げ住宅【(独)都市再生機構住宅】

学生宿舎への入居が叶わなかった方、また入居を希望されなかった方の下宿探しの一助として、大学周辺の(独)都市再生機構(旧日本住宅公団)の3団地(中登美第三団地、平城第一団地、富雄団地)賃貸住宅を大学が借り上げ、希望者に提供しています。

■家賃等の目安

- 間取り1DK~3DKの物件 ●家賃：3万5千~5万
- 共益費：3千円前後
- 保証金：なし

民間アパート等

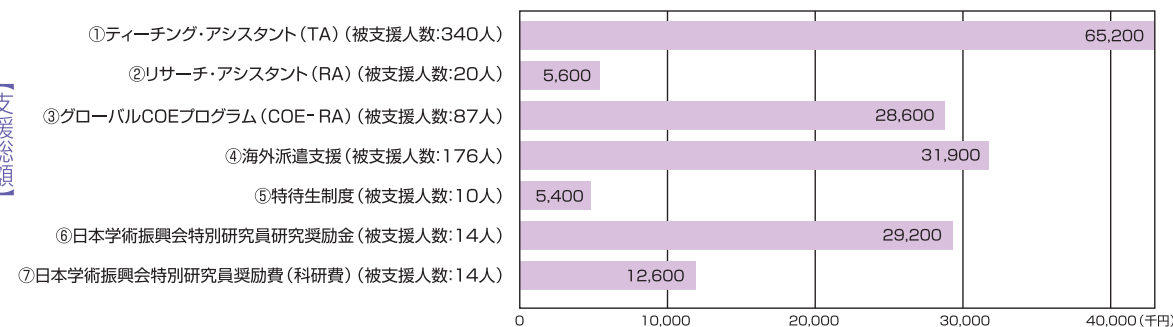
アパート、マンションを斡旋する業者を紹介します。

■家賃等の目安

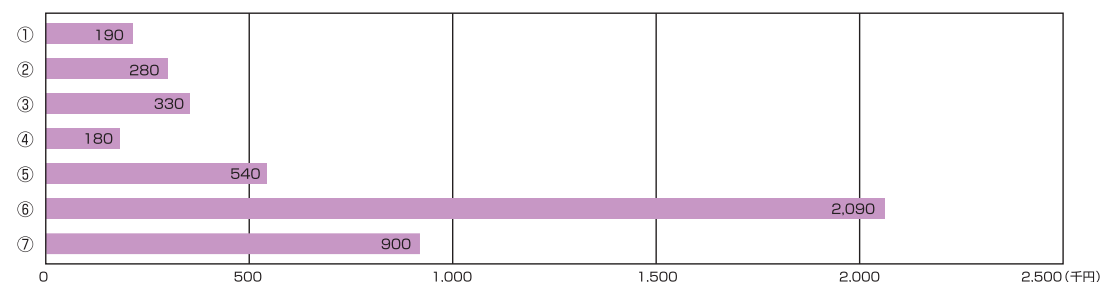
- (本学周辺におけるワンルームマンションの場合)
- 間取り6~7畳の物件 ●家賃：4~5万円
 - 共益費：3千~5千円
 - 保証金：25~30万円

大学院教育・研究活動支援

【支援総額】

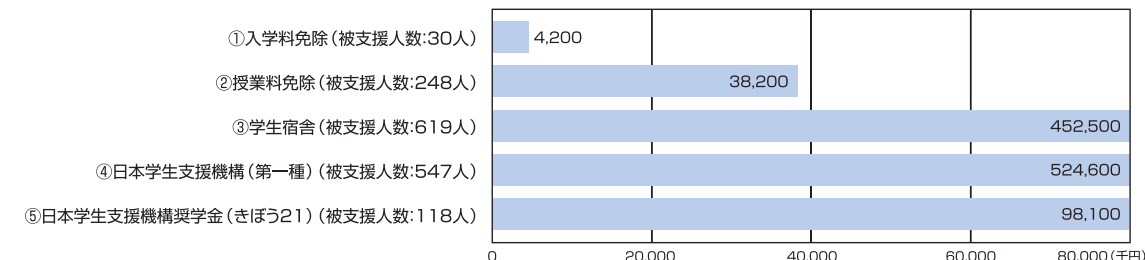


【一人当平均支援額】

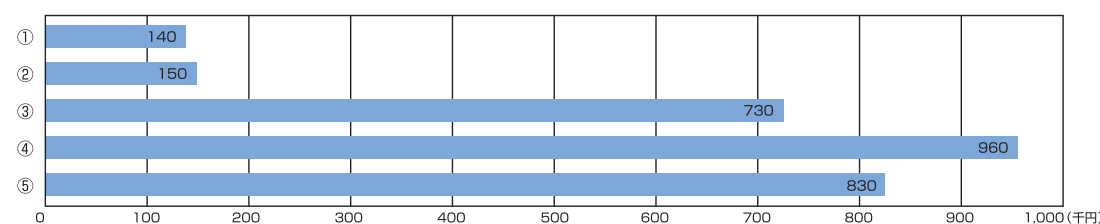


学生生活支援

【支援総額】



【一人当平均支援額】



※1 上記支援額は、平成19年度における本学在学学生に対する経済支援の概算数値
 ※2 学生宿舎にかかる支援額は、周辺の民間賃貸住宅を借用した場合との差額

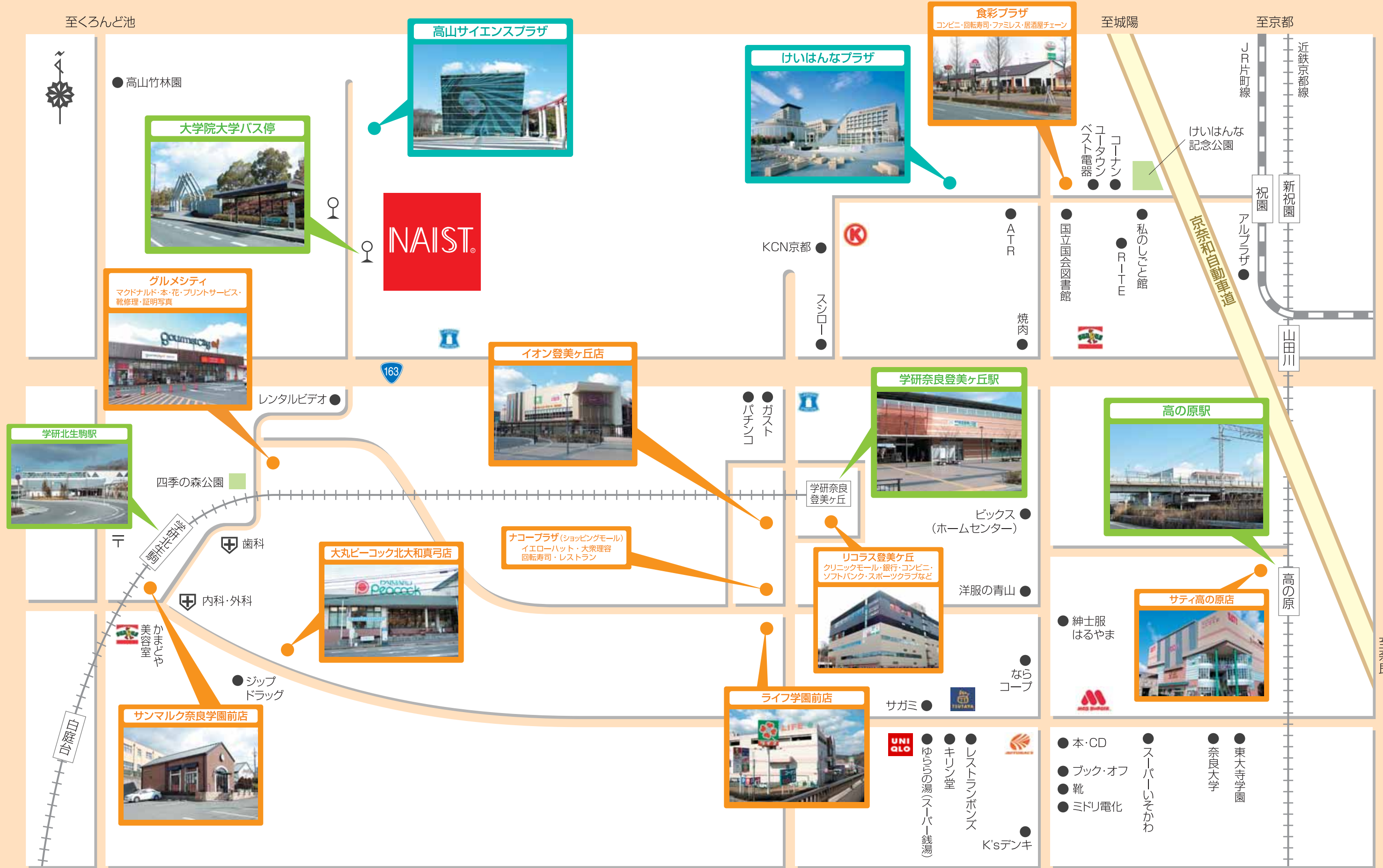


キャンパス周辺エリアMAP

CAMPUS AREA MAP

本学は、関西文化学術研究都市の一画、高山サイエスタウンに位置しています。閑静で緑豊かなこのエリアは、2006年に近鉄けいはんな線が開通したばかりの新しい街。キャンパス周辺から登美ヶ丘・押熊方面にかけて、おしゃれなお店がいろいろあります。研究の合間に、そして休日に、一度立ち寄ってみては。

キャンパス周辺エリアMAP
CAMPUS AREA MAP





修了後の進路及び就職状況 AFTER GRADUATION

優秀な修了生たちが、幅広い分野の企業や大学で活躍中



本学では、年に数回の学外講師による就職支援プログラムを実施しており、就職についてのサポートもばっちりです。

第1回 就職セミナー

就職活動の進め方と支援スケジュール予定について

第2回 就職ガイダンス

自己分析の方法

第3回 就職ガイダンス

自己PRの作成

第4回 就職ガイダンス

履歴書・エントリーシート対策

第5回 就職ガイダンス

業界・職種研究について

第6回 就職ガイダンス

企業訪問および面接について

第7回 就職ガイダンス

面接集中講座① ～集団面接～

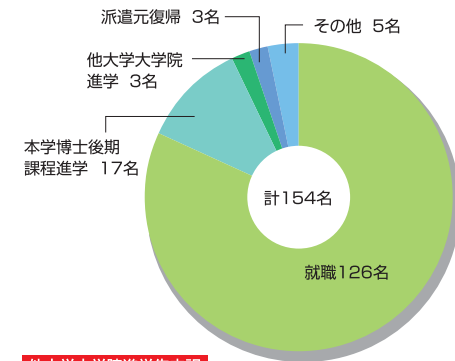
第8回 就職ガイダンス

面接集中講座② ～集団面接～

(平成19年度のプログラムです)

情報科学研究科

【平成19年度博士前期課程修了者】



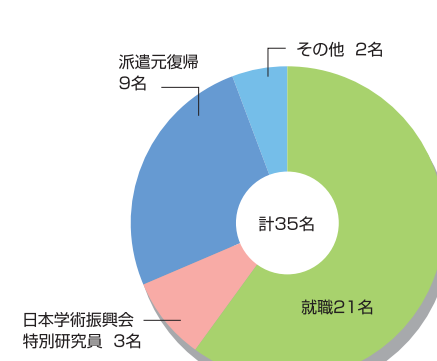
他大学大学院進学先内訳

- 一橋大学
- 京都大学
- 慶応義塾大学

就職先内訳

- 日立製作所
- トヨタ自動車
- ソニー
- 三洋電機
- 日本アイ・ビー・エム
- 日本電気
- デンソー
- 松下電器産業
- NTTデータ
- メガチップス
- ヤフー
- 島津製作所
- アイシン精機
- エヌ・ティ・ティ・コム関西
- シャープ
- ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ
- とめ研究所
- フラー工業
- 川崎重工業
- 大日本印刷
- 日本電信電話
- 富士ゼロックス
- KDDI
- NECソフト
- NECビッグロフ
- アイアール・アルト
- アイフォーコム
- あかさき設計
- エヌ・ティ・ティ・ドコモ
- オーム社
- オリンパスメディカルシステム
- カシオ計算機
- カレント・パーソナル
- かんでんエンジニアリング
- きざしカンパニー
- キャンノン
- ソニーグローバルソリューションズ
- ダイキン工業
- ダイヘン
- タカラベルモント
- トヨタコミュニケーションシステム
- エコシステム
- パナソニック半導体システムテクノ
- 丸技研
- 丸研研究所
- フェイス
- フューチャーアーキテクト
- モレキュラーイメージングラボ
- ヤマハ
- 旭化成
- 伊藤忠テクノソリューションズ
- 関西電力
- 京セラミタ
- 公立南丹病院
- 高取電機工作所
- 三菱電機
- 三菱東京UFJ銀行
- 自然科学研究機構 基礎生物学研究所
- 住友電気工業
- 新生銀行
- 大正製薬
- 大和ハウス工業
- 電源開発
- 東芝
- 日本SGI
- 日本オラル
- 日本総合研究所
- 日立公共システムエンジニアリング
- 任天堂
- 富士重工業
- 富士通
- 富士電機アドバンストテクノロジー
- 白鶴酒造
- 富士通
- 兵庫みらい農業協同組合
- VSN
- WDB

【平成19年度博士後期課程修了者】

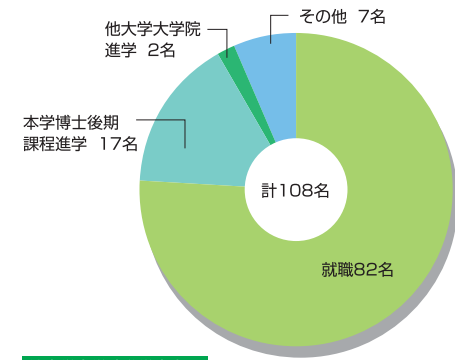


就職先内訳

- 奈良先端科学技術大学院大学
- DynamisAB
- King Fahd University of Petroleum & Minerals
- キャンノン
- ジャストシステム
- ヤフー
- 科学技術振興機構
- 国際電気通信基礎技術研究所
- 三菱化学
- 三菱電機
- 産業技術総合研究所
- 酒井国際特許事務所
- 青山特許事務所
- 大阪大学
- 日本アイ・ビー・エム
- 豊田中央研究所
- 立命館大学

バイオサイエンス研究科

【平成19年度博士前期課程修了者】



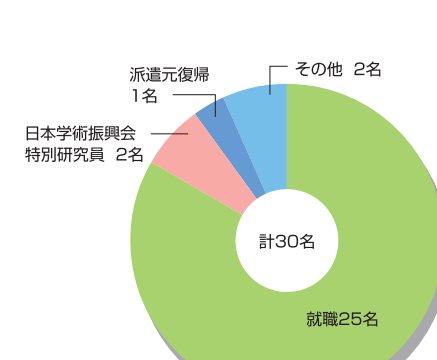
他大学大学院進学先内訳

- 富山大学
- 京都大学

就職先内訳

- クインタイルズトランスナショナル・ジャパン
- トヨタ自動車
- 田村薬品工業
- 医療法人宝生会PL病院
- 住宅金融支援機構
- 理化学研究所
- BSC
- アイエイエフコンサルティング
- アグレックス
- アストラゼネカ
- アルフレッサファーマ
- オリエンタル酵母工業
- カネコ種苗
- キッセイ薬品工業
- キューサイ
- クラシエ製薬
- ザイエンス
- サントリー
- シーボック
- シミツク
- ソフメーカ
- タカナシ乳業
- タカラバイオ
- タキイ種苗
- チタカ・インターナショナル・フーズ
- デルモ
- ナカライテック
- ノボ ノルディクス ファーマ
- ハクソウメディカル
- ピカソ美化学研究所
- ファルコバイオシステムズ
- フマキラー
- フレンテ
- マルハニチロホールディングス
- みずほコーポレーション
- みずほ情報総研
- メデイサイエンスプランニング
- メニコン
- ヤマサ醤油
- ヤンセンファーマ
- ユニチカ
- リニカル
- ロシュ・ダイアグノスティクス
- 愛知県
- 伊藤園
- 興野製薬工業
- 岩谷産業
- 京産
- 京都市
- 協和発酵工業
- 金井重要工業
- 九州大学大学院
- 磐化学工業
- 山武
- 住化農業資材
- 住友ゴム工業
- 常盤薬品工業
- 数理技研
- 雪印乳業
- 大阪大学大学院
- 大腸薬品工業
- 大和ハウス工業
- 朝日インテック
- 天狗缶詰
- 東芝
- 栃木県
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 日清製粉
- 日本サンガリア(レジカン)カンパニー
- 日本ミルクコミュニティ
- 日本製紙
- 日本製粉
- 日本化成工業
- 日立製作所

【平成19年度博士後期課程修了者】

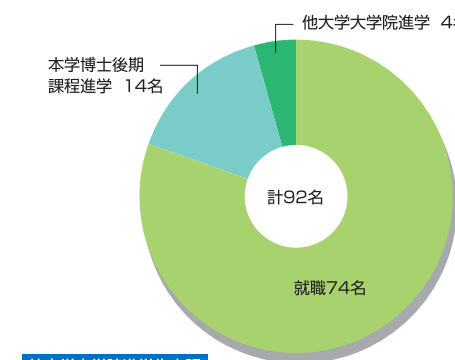


就職先内訳

- 奈良先端科学技術大学院大学
- Purdue University
- University of California, Davis
- サイエンス倶楽部
- 愛知県がんセンター
- 旭化成ファーマ
- 韓京大学
- 空崎大学
- 原謙三国際特許事務所
- 自然科学研究機構 基礎生物学研究所
- 大阪大学
- 東芝物流
- 日本植生
- 味の素
- 名古屋大学
- 理化学研究所

物質創成科学研究科

【平成19年度博士前期課程修了者】



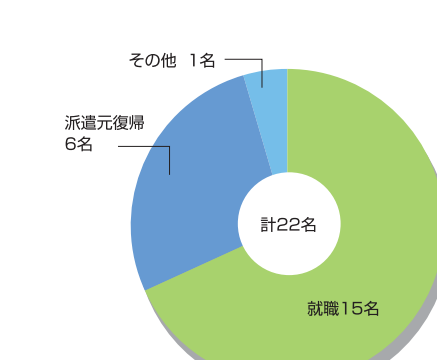
他大学大学院進学先内訳

- 京都大学
- 北海道大学
- 名古屋大学

就職先内訳

- 東レ
- 住友電気工業
- 大日本スクリーン製造
- TDK
- キャンノン
- シャープ
- 三洋電機
- 松下電器産業
- 村田製作所
- 大日本印刷
- 凸版印刷
- 日本電子
- JSR
- KBセーレン
- NECエレクトロニクス
- NOK
- イビデン
- カネカ
- コスモ石油
- ダイキン工業
- ダイハツ工業
- デンソー
- トクヤマ
- パナソニック半導体ディスプレイデバイス
- ホシデン
- メイテック
- ルネサス テクノロジ
- ローム
- 旭化成
- 興野製薬工業
- 花王
- 丸石製薬
- 京セラミタ
- 興和製薬
- 近鉄ケーブルネットワーク
- 材料科学技術振興財団
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
- 三菱電機
- 三菱電機工業
- 住友ゴム工業
- 住友化学
- 住友精化
- 上野製薬
- 大阪ソフトハウス
- 第一工業製薬
- 沢井製薬
- 椿本チエイン
- 帝人
- 島津製作所
- 東ソー
- 東レ・ファインケミカル
- 東京エレクトロンAT
- 東亜合成
- 日本ペイント
- 日本曹達
- 日立国際電気
- 旭硝子
- WDBエウレカ

【平成19年度博士後期課程修了者】



就職先内訳

- 高輝度光科学研究センター
- JSR
- シャープ
- ダイキン工業
- 京都大学
- 住友重機械工業
- 昭和電工
- 神戸市立工業専門高等学校
- 大阪大学大学院
- 島津製作所
- 同志社女子大学
- ニプロ
- 日本農業
- 物質・材料研究機構

※平成20年3月31日現在



学生数

| 研究科名 | 専攻名 | 募集人員 | | 現 員 | | | | | | | | 合 計 |
|-------------|-----------|------------|------------|------------|---------|----------|------------|--------|----------|---------|-----------|-----|
| | | 博士前期(修士)課程 | 博士後期(博士)課程 | 博士前期(修士)課程 | | | 博士後期(博士)課程 | | | | | |
| | | | | 1年 | 2年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 | | |
| 情報科学研究科 | 情報処理学専攻 | 146 | 43 | 143(18) | 57(5) | 39(4) | 12(3) | 12(2) | 435(53) | | | |
| | 情報システム学専攻 | | | | 69(5) | | 13(1) | 19(2) | | | | |
| | 情報生命科学専攻 | | | | 39(10) | | 16(2) | 16(1) | | | | |
| | 計 | | | | 165(20) | | 308(38) | 41(6) | | 47(5) | 127(15) | |
| バイオサイエンス研究科 | 細胞生物学専攻 | 114 | 34 | 124(46) | 58(22) | 21(6) | 12(2) | 19(3) | 334(114) | | | |
| | 分子生物学専攻 | | | | 58(19) | | 14(6) | 28(10) | | | | |
| | 計 | | | | 116(41) | | 240(87) | 26(8) | | 47(13) | 94(27) | |
| 物質創成科学研究科 | 物質創成科学専攻 | 90 | 30 | 98(16) | 99(16) | 197(32) | 27(4) | 18(3) | 19(2) | 64(9) | 261(41) | |
| 合 計 | | 350 | 107 | 365(80) | 380(77) | 745(157) | 87(14) | 85(17) | 113(20) | 285(51) | 1030(208) | |

※()内は、女子で内数 (平成20年4月1日現在)
 ※情報科学研究科博士前期課程及び全研究科博士後期課程は秋学期入学を実施しており、各学年とも秋学期入学者を含めています。

学術交流協定の締結

本学では、海外の教育研究機関と、共同研究、共同シンポジウム、講義の実施、学術情報及び学術資料の交換並びに教職員及び大学院学生の交流を行っています。これらの交流を促進するため、学術交流協定の締結を積極的に進めています。協定は相手大学等と事前の協議を重ねて締結されており、現在、大学間協定は13件、部局間交流協定が14件締結されています。

- 【全学】**
 - カリフォルニア大学デービス校
 - メリーランド大学カレッジパーク校
 - ヨエンス大学
 - ガジャマダ大学
 - マヒドン大学
 - エーゲ大学
 - オーボ・アカデミー大学
 - ルーバン・カトリック大学
 - ボゴール農業大学
 - ポールサバチ工科大学
 - 韓国生命工学研究所
 - 韓国科学技術院
 - ポアティ工科大学
- 【情報科学研究科】**
 - オーストラリア国立大学情報工学研究科
 - オウル大学理学部情報処理科
 - 南台科技大学工学院
 - ハワイ大学工学部
 - モンゴル科学技術大学コンピュータ科学・経営学部
- 【物質創成科学研究科】**
 - チューリヒ大学理学部
 - 浦項工科大学新素材工学科
 - 光州科学技術院物質理工学研究科
 - デブレチン大学物理学研究科
 - アダム・ミツケビッチ大学化学部
 - ラトビア大学物理数学部
 - サンクトペテルブルク国立工科大学物理力学部
 - ゲブゼ工科大学物質工学科
- 【バイオサイエンス研究科】**
 - ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所

学術交流協定締結状況(平成20年4月1日現在)

学位授与状況

| 研究科名 | 年度 | 博士前期課程 | | | 博士後期課程 | | |
|-------------|-----------|-----------|--------|--------------|-----------|--------|--------------|
| | | 修士(工学) | 修士(理学) | 修士(バイオサイエンス) | 博士(工学) | 博士(理学) | 博士(バイオサイエンス) |
| 情報科学研究科 | 平成17年度 | 124(9) | 9(0) | — | 25(9) | 10(3) | — |
| | 平成18年度 | 140(6) | 8(1) | — | 46(10)① | 4(1) | — |
| | 平成19年度 | 150(5) | 4(1) | — | 29(10) | 6(0) | — |
| | 累計(H5~19) | 1823(116) | 78(5) | — | 338(118)④ | 31(7) | — |
| バイオサイエンス研究科 | 平成17年度 | — | — | 114(0) | — | — | 20(0)⑥ |
| | 平成18年度 | — | — | 97(0) | — | — | 30(1)⑤ |
| | 平成19年度 | — | — | 108(0) | — | — | 30(1)③ |
| | 累計(H5~19) | — | — | 1466(2) | — | — | 269(11)② |
| 物質創成科学研究科 | 平成17年度 | 78(0) | 11(0) | — | 13(2) | 11(0) | — |
| | 平成18年度 | 85(0) | 14(0) | — | 9(2) | 8(2) | — |
| | 平成19年度 | 74(2) | 18(0) | — | 12(2) | 11(3) | — |
| | 累計(H5~19) | 652(4) | 167(3) | — | 81(21) | 40(8) | — |

※()は、短期修了者数を内数で示す。○内は、本学の学位規程第3条第3項による学位授与者を外数で示す。 (平成20年4月1日現在)

留学生

| 国・地域 | ア ジ ア | | | | | | | | | | 中東 | アフリカ | 大洋州 | 中南米 | 北米 | ヨーロッパ | | | 合 計 | | | | |
|-------|---------|------|-------|-------|--------|------|-------|----|------|------|------|----------|-----------|-----|---------|-------|------|----|------|------|-------|-------|--------|
| | バングラデシュ | タイ | マレーシア | フィリピン | インドネシア | 韓国 | 中国 | 台湾 | トルコ | モロッコ | エジプト | ニュージーランド | パプアニューギニア | バハマ | ドミニカ共和国 | ブラジル | アメリカ | チリ | | フランス | ハンガリー | ブルガリア | |
| 国費留学生 | 博士前期課程 | | 1 | | | | 1 | | | | | | | 1 | 3(1) | | | | | | | 7(1) | |
| | 博士後期課程 | 2 | 1(1) | 1 | 1 | 3(1) | 2(2) | | | | | | | | 1(1) | | | | 2 | 1(1) | | 14(6) | |
| | 非正規生 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| 私費留学生 | 博士前期課程 | | | | | 1(1) | 6(3) | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | 9(4) | |
| | 博士後期課程 | 2(1) | | 2 | 3(3) | 2 | 6(2) | | 2(1) | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 19(7) | |
| | 非正規生 | | 1(1) | | | 2(2) | 1(1) | | | 1 | | | | | | | | | 1(1) | 1(1) | | 7(6) | |
| 計 | 2 | 3(2) | 3(1) | 3 | 6(4) | 5(3) | 16(8) | 1 | 2(1) | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1(1) | 3(1) | 2 | 1 | 1(1) | 2 | 1(1) | 1(1) | 57(24) |

国費外国人留学生 22名(情報 16名、バイオ 5名、物質 1名) (平成20年4月1日現在)
 私費外国人留学生 35名(情報 16名、バイオ 11名、物質 8名)です。

奈良先端科学技術大学院大学外国人留学生等後援会

本学の外国人留学生に対する学修及び生活上の援助を行うとともに、本学の派遣学生が留学中又は学術交流協定等に基づく外国滞在中の不測の事態に対する援助を行うことにより、本学の留学生交流の一層の促進を図っています。





入学者選抜試験

ENTRANCE EXAMINATION

大学や企業から、研究への高い志を持つ学生を募集中

- 試験は主に面接により行います。
- 博士前期課程は1年間に3回入試を行います。
- 秋学期入学の入試も実施します。(博士前期課程は情報科学研究科のみ実施)。
- バイオサイエンス研究科及び物質創成科学研究科の博士前期課程1回目の入学者選抜試験は、東京会場でも受験できます。
- 願書等の出願書類を本学ホームページからダウンロードできます。(URL: <http://www.naist.jp/>)

募集人員・入試日程

博士前期課程

| | 【試験回】 | 【出願期間】 | 【選抜期日】 | 【合格発表】 | 【入学手続】 |
|----------------------------|------------------------|-----------------------------|---|--------------|----------------------------------|
| 情報科学研究科 (募集人員 146名) | ●春学期第1回 [H20秋学期第2回] | H20.6.11(水)~ H20.6.13(金) | H20.7.9(水)~ H20.7.12(土) | H20.7.17(木) | H21.2下旬~3月上旬 (秋学期入学者はH20.9下旬) |
| | ●春学期第2回 [H20秋学期第3回] | H20.8.27(水)~ H20.8.29(金) | H20.9.16(火)~ H20.9.17(水) | H20.9.19(金) | |
| | ●春学期第3回 [H21秋学期第1回] | H21.2.18(水)~ H21.2.20(金) | H21.3.11(水) | H21.3.13(金) | |
| バイオサイエンス研究科 (募集人員 114名) | ●第1回 | H20.6.11(水)~ H20.6.13(金) | [本学] H20.7.9(水)~ H20.7.12(土) [東京] H20.7.15(火)~ H20.7.16(水) | H20.7.22(火) | H21.2下旬~3月上旬 |
| | ●第2回 | H20.9.17(水)~ H20.9.19(金) | H20.10.14(火)~ H20.10.16(木) | H20.10.20(月) | |
| | ●第3回 | H21.2.10(火)~ H21.2.13(金) | H21.3.3(火) | H21.3.9(月) | |
| 物質創成科学研究科 (募集人員 90名) | ●第1回 | H20.6.11(水)~ H20.6.13(金) | [本学] H20.7.9(水)~ H20.7.12(土) [東京] H20.7.15(火) | H20.7.22(火) | H21.2下旬~3月上旬 |
| | ●第2回 | H20.9.17(水)~ H20.9.19(金) | H20.10.14(火)~ H20.10.16(木) | H20.10.20(月) | |
| | ●第3回 | H21.2.10(火)~ H21.2.13(金) | H21.3.3(火) | H21.3.9(月) | |

※飛び入学による受験者については、上記合格発表日に仮合格として発表し、後日、所定の手続きを経た上、あらためて合格者として発表します。
詳しくは学生募集要項を確認してください。

博士後期課程

| | 【試験回】 | 【出願期間】 | 【選抜期日】 | 【合格発表】 | 【入学手続】 |
|---------------------------|------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------|----------------------------------|
| 情報科学研究科 (募集人員 43名) | ●春学期第1回 [H20秋学期第2回] | H20.8.18(月)~ H20.8.20(水) | H20.9.8(月)~ H20.9.12(金) | H20.9.19(金) | H21.2下旬~3月上旬 (秋学期入学者はH20.9下旬) |
| | ●春学期第2回 [H21秋学期第1回] | H21.2.2(月)~ H21.2.4(水) | H21.2.23(月)~ H21.2.25(水) | H21.2.27(金) | |
| バイオサイエンス研究科 (募集人員 34名) | ●H20秋学期 | H20.7.29(火)~ H20.7.31(木) | H20.9.1(月)~ H20.9.2(火) | H20.9.4(木) | H20.9下旬 |
| | ●春学期第1回 | H20.9.1(月)~ H20.9.3(水) | H20.10.6(月)~ H20.10.7(火) | H20.10.20(月) | H21.2下旬~3月上旬 |
| | ●春学期第2回 | H21.2.4(水)~ H21.2.6(金) | H21.2.26(木)~ H21.2.27(金) | H21.3.9(月) | H21.3下旬 |
| 物質創成科学研究科 (募集人員 30名) | ●春学期第1回 [H20秋学期第2回] | H20.8.4(月)~ H20.8.6(水) | H20.8.25(月)~ H20.8.28(木) | H20.9.1(月) | H21.2下旬~3月上旬 (秋学期入学者はH20.9下旬) |
| | ●春学期第2回 [H21秋学期第1回] | H21.2.9(月)~ H21.2.12(木) | H21.3.2(月)~ H21.3.4(水) | H21.3.9(月) | |

入学時に必要な学費

【平成21年度】 入学金 282,000円(予定額)
授業料 535,800円<半期分267,900円>(予定額)

(注) 入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改正時から新たな納付金額が適用されます。

入学状況

※他分野とは、文型出身者を指しています。

| 課程 | 研究科名 | 年度 | 出願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 | 入学者のうち | | |
|-----------|-------------|--------|------|------|------|------|--------|------|------|
| | | | | | | | 社会人 | 他分野※ | 飛び入学 |
| 博士前期課程 | 情報科学研究科 | 平成18年度 | 348 | 329 | 175 | 151 | 6 | 3 | 1 |
| | | 平成19年度 | 387 | 368 | 189 | 145 | 8 | 3 | 3 |
| | | 平成20年度 | 341 | 326 | 187 | 139 | 3 | 5 | 2 |
| | バイオサイエンス研究科 | 平成18年度 | 294 | 281 | 169 | 121 | 12 | 4 | 0 |
| | | 平成19年度 | 330 | 313 | 171 | 118 | 1 | 6 | 0 |
| | | 平成20年度 | 282 | 268 | 183 | 124 | 7 | 1 | 0 |
| 物質創成科学研究科 | 平成18年度 | 277 | 254 | 137 | 95 | 1 | 1 | 1 | |
| | 平成19年度 | 242 | 231 | 143 | 97 | 4 | 7 | 0 | |
| | 平成20年度 | 241 | 234 | 148 | 98 | 8 | 0 | 1 | |
| 博士後期課程 | 情報科学研究科 | 平成18年度 | 32 | 32 | 32 | 32 | 5 | 1 | — |
| | | 平成19年度 | 37 | 37 | 36 | 36 | 4 | 0 | — |
| | | 平成20年度 | 28 | 27 | 27 | 26 | 6 | 0 | — |
| | バイオサイエンス研究科 | 平成18年度 | 30 | 30 | 30 | 28 | 3 | 0 | — |
| | | 平成19年度 | 29 | 29 | 27 | 27 | 0 | 0 | — |
| | | 平成20年度 | 25 | 25 | 22 | 21 | 2 | 0 | — |
| 物質創成科学研究科 | 平成18年度 | 18 | 18 | 18 | 18 | 4 | 0 | — | |
| | 平成19年度 | 13 | 13 | 13 | 13 | 4 | 1 | — | |
| | 平成20年度 | 18 | 18 | 18 | 18 | 4 | 0 | — | |

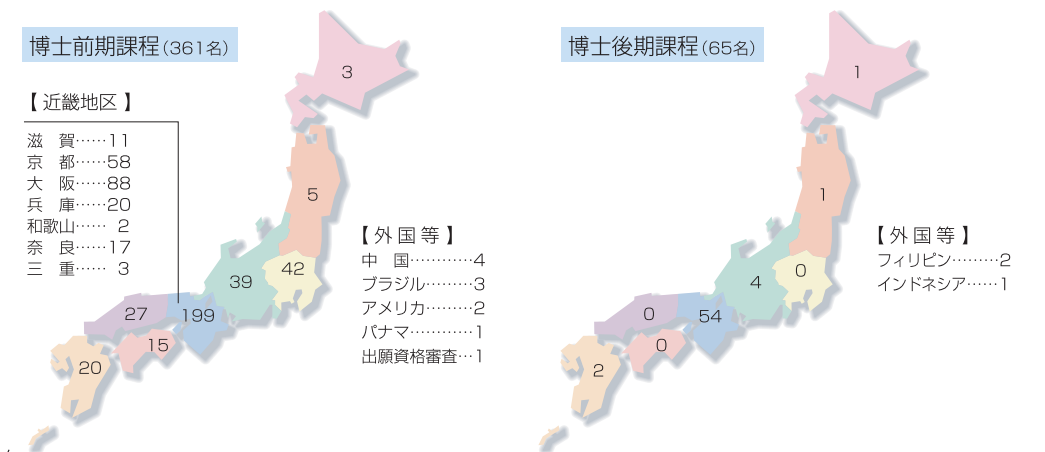
秋学期入学者は含めていません。

平成20年度博士前期課程の試験回別入試結果

| | 情報科学研究科 | | | バイオサイエンス研究科 | | | 物質創成科学研究科 | | |
|-----|---------|-------|-------|-------------|-------|-------|-----------|-------|-------|
| | 【第1回】 | 【第2回】 | 【第3回】 | 【第1回】 | 【第2回】 | 【第3回】 | 【第1回】 | 【第2回】 | 【第3回】 |
| 出願者 | 221 | 86 | 34 | 181 | 77 | 24 | 139 | 77 | 25 |
| 受験者 | 215 | 79 | 32 | 179 | 67 | 22 | 134 | 76 | 24 |
| 合格者 | 132 | 43 | 12 | 120 | 50 | 13 | 97 | 42 | 9 |
| 入学者 | 92 | 35 | 12 | 71 | 40 | 13 | 56 | 34 | 8 |

秋学期入学者は含めていません。

平成20年度入学者の出身大学・大学院の所在地



INFORMATION ●各研究科のホームページの入試Q&Aコーナー等で、入試に役立つ情報が多数掲載されていますので、一度ご覧ください。



学生募集イベント

EVENT

平成20年学生募集説明会・受験生のためのオープンキャンパス案内

下記日程において、本学の入学者募集に関する説明会等を開催しますので、関心のある方は、是非参加してください。
奈良先端科学技術大学院大学 学生課学務・入試係 (0743) 72-5083 gakusei@ad.naist.jp

※予定または未定となっている会場につきましては、確定次第、本学ホームページに更新していきます。(変更となる場合がありますので、ご注意ください。)

【平成20年5月学生募集説明会】

| 地区 | 開催日 | 会場 | 情報科学研究科 | バイオサイエンス研究科 | 物質創成科学研究科 |
|-----|---------------|--|-------------|-------------|-------------|
| 東北 | 平成20年4月26日(土) | 仙台サンプラザ | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 |
| 関東 | 平成20年5月10日(土) | キャンパス・イノベーション・センター(東京地区) (バイオは個別相談会を併催) | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 |
| | 平成20年5月17日(土) | 横浜市教育会館 | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 |
| 甲信越 | 平成20年5月10日(土) | 長野県民文化会館 | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 |
| 北陸 | 平成20年5月10日(土) | ガーデンホテル金沢 | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 |
| 東海 | 平成20年5月17日(土) | IMYホール(名古屋) | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 |
| 近畿 | 平成20年5月10日(土) | 京都テルサ(京都市民総合交流プラザ) | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 |
| | 平成20年5月17日(土) | 梅田スカイビル(バイオは個別相談会、物質は個別相談会と講座紹介パネル展示を併催) | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 |
| | 平成20年5月14日(水) | 奈良女子大学 | 16:20~17:40 | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 |
| | 未定 | 京都大学工学部(予定) | 未定 | — | — |
| | 未定 | 大阪大学工学部(予定) | 未定 | — | — |
| 中国 | 平成20年4月26日(土) | 米子コンベンションセンター(鳥取) | 13:20~14:50 | — | 15:00~16:30 |
| | 平成20年5月10日(土) | RCC文化センター(広島) | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 |
| | 平成20年5月17日(土) | ピュアリティまきび(岡山) | 12:20~13:40 | 13:50~15:10 | 15:20~16:40 |
| 四国 | 平成20年4月26日(土) | 徳島大学 | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 |
| 九州 | 平成20年5月17日(土) | エルガーホール(福岡) | 13:20~14:40 | 14:50~16:10 | 16:20~17:40 |
| | 未定 | 九州工業大学情報工学部(飯塚キャンパス)(予定) | 未定 | — | — |

【平成20年8~9月学生募集説明会】

| 地区 | 開催日 | 会場 | 情報科学研究科 | バイオサイエンス研究科 | 物質創成科学研究科 |
|----|---------------|------------------------------|-------------|-------------|-------------|
| 関東 | 平成20年9月6日(土) | キャンパス・イノベーション・センター(東京地区)(予定) | — | 13:20~14:50 | 15:00~16:30 |
| 近畿 | 平成20年8月16日(土) | 阪急グランドビル(大阪)(個別相談会を併催) | 13:30~15:00 | — | — |
| | 平成20年9月6日(土) | 梅田スカイビル(予定) | — | 15:00~16:30 | 13:20~14:50 |
| | 平成20年9月6日(土) | 京都テルサ(京都市民総合交流プラザ)(予定) | — | 13:20~14:50 | 15:00~16:30 |

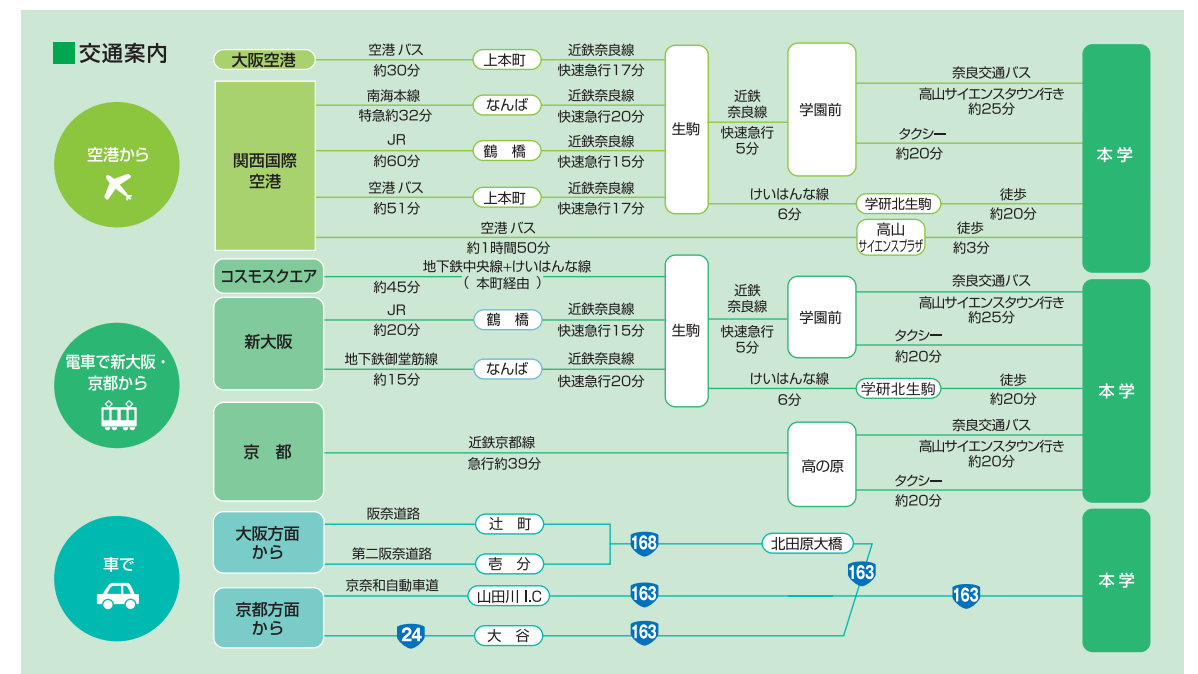
【受験生のためのオープンキャンパス】

| 開催日 | 会場 | 情報科学研究科 | バイオサイエンス研究科 | 物質創成科学研究科 |
|---------------|----|----------|-------------|-----------|
| 平成20年5月24日(土) | 本学 | 全研究科とも開催 | | |

※この他、各研究科独自のイベントの開催を予定しています。詳細は、本学ホームページ及び研究科事務室に問い合わせください。

Access アクセス

詳細はホームページ <http://www.naist.jp> をご覧ください



NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY 奈良先端科学技術大学院大学

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916番地の5 奈良先端科学技術大学院大学 学生課
電話/0743(72)5083 FAX/0743(72)5014
メールアドレス/gakusei@ad.naist.jp ホームページ/http://www.naist.jp/